

第九十回帝國議會 衆議院 勞働關係調整法案委員會會議錄(速記)第四回

付託議案
勞働關係調整法案(政府提出)

昭和二十一年七月二十四日(水曜)
日)午前十時五十四分開議

出席委員

委員長 逢澤 寛君

理事 江崎 眞澄君 理事 龍澤 脩作君

理事 竹田 儀一君 理事 古賀喜太郎君

理事 伊藤卯四郎君 理事 松岡 駒吉君

飯田壯三都君 今井 はつ君

杉田 馨子君 村上 勇君

山本 勝市君 川崎 秀二君

關谷 勝利君 橋 直治君

長尾 達生君 山下 春江君

赤松 勇君 土井 直作君

今村 等君 安平 鹿一君

山下 榮二君 東 隆君

木下 榮君 原 國君

藤井 正男君 穗積 七郎君

藤田 榮君 正田 敏男君

七月二十三日委員野本吉吉君及ビ

磯田正則君辭任ニ付其ノ補闕トシ

テ藤田榮君及ビ石田一松君ヲ議長

ニ於テ選定シタ

出席國務大臣

文部大臣 田中耕太郎君

厚生大臣 河合 良成君

出席政府委員

文部事務官 柴沼 直君

厚生政務次官 服部 岩吉君

厚生參與官 佐藤 久雄君

厚生事務官 吉武 惠市君
厚生事務官 富樫 總一君

本日ノ會議ニ付シタ議案
勞働關係調整法案(政府提出)

○逢澤委員長 開會致シマス、文

部大臣ニ對スル質疑ヲ要求致サレ

テ居リマス——安平鹿一君

○安平委員 文部大臣ニ御尋ネ致

シマスルガ、勞働組合法第一條ニ

「勞働者ノ地位ノ向上ヲ圖リ經濟

ノ興隆ニ寄與スル」云々ト規定サ

レテアリマスガ、從來ノ資本主義

的ナ教育ノ下ニアリマシテハ、ト

モスレバ人間的ナ權利、サウ云ツ

タモノヲ蹂躪シテ、資本家ノ利潤

追求ノ道具トシテダケ評價サレテ

居リマシタガ、殊ニ戰爭中ハ軍國

主義的ナ、侵略主義的ナ教育ガ徹

底シテ居リマシタ爲ニ、工場ニ於

ケル是等ノ而モ大事ナ將來ヲ擔フ

青年勞働者ノ中ニハ、サウシタ軍

國主義的教育ヲ受ケ、終戰後突然

其ノ教育方針ガ民主主義的ナ方向

ニ向フト云フヤウナ點ニ於キマシ

テ、非常ニ「ブランド」ニナツテ、

迷フヤウナ氣持ニナツテ居リマス

ノデ、此ノ問題ニ付キマシテハ、

生産ノ重要ナ擔當者デアリマスル

青年教育ニ付テ、相當慎重ニ考ヘ

ナケレバナラナイト思フノデアリ

マス、私ノ考ヘル所ニ依リマスレ

バ、今後ニ於ケル勞働者、特ニ青

年勞働者ニ對シマシテハ、所謂勤

勞ト教育ガ直結スル所ノ、所謂實

務教育デナケレバナラナイト思ヒ

マス、斯ウシタ點デ、サウ云フ教

育方針ヲ實現スルコトコソガ、工

場ヲ中心ニスル青年ノ科學的ナ、

技術的ナ、又品性ノ向上、青年ノ

陶冶等ニ於ケル道場トナルコトニ

ナラナケレバナラナイト云フヤウ

ニ考ヘテ居リマス、斯ウシタ過去

ノ軍國主義教育ヲ排シテ、更ニ勤

勞ト教育ト直結サセタ民主主義的

ナ教育ヲスル、斯ウ云フ點ニ付キ

マシテ、從來各工場ニ於テ行ハレ

テ居リマシタ青年學校ヲ、國家ノ

負擔ニ於テ中學校若シクハ專門學

校程度以上ニ昇格致シマシテ、青

年教育ノ充實ト云フコトニ重點ヲ

置カナケレバナラナイト思フノデ

アリマスガ、此ノ點ニ付テノ御考

ヘヲ御聽キシタイト思ヒマス

○田中國務大臣 只今ノ御質問ノ

根本ノ御趣旨ハ至極同感デゴザイ

マス、終戰後從來ノ誤ツテ居ル教

育ガ一掃サレナケレバナラナクナ

リマシテ、新タニドウ云フ理念ニ

依ツテ教育ヲ再建シテ行クカト云

フコトニ付キマシテハ、一般大衆

青年ノミナラズ、教育家デスラ迷

ツテ居ルヤウナ向モ随分ゴザイマ

ス、此ノ點ニ付キマシテハ餘リ極

端ナル個人主義的、資本主義的ノ

思想ガ反省セラレナケレバナラナ

イト同時ニ、又其ノ對蹠的ノ意味

ニ於テ、主張サレテ居リマシタ所

ノ軍國主義的、極端ナ國家主義的

思想モ、一層徹底的ニ拂拭サレナ

ケレバナラナイ譯デゴザイマス、

サウ云フ意味ニ於キマシテ我々今

日努力致シテ居ル次第デアリマ

ス、殊ニ御指摘ニナリマシタ人間

生活ハ或ハ理論ノ方面デアレ、

或ハ勤勞ト云フ實踐ノ方面デア

レ、其ノ二ツガ有機的ニ結付イテ

居ナケレバナリマセヌノデ、單ナ

ル抽象的知識ニ走ルベキデハナイ

ト同時ニ、又理論ノナイ所ノ技術

又人間ノ本當ノ生活ニ結付イテ居

ナイ所ノ技術ト云フコトモ反省サ

レナケレバナラナイト思フノデア

リマス、或ハ都市ニ於ケル、或ハ

農村ニ於キマスル青年教育ノ問題

ハ、今後非常ナ重要性ヲ加ヘルノ

デゴザイマシテ、此ノ點ニ付キマ

シテハ既ニ隨分御議論モ承ツタノ

デアリマシテ、特ニ此ノ青年學校

ノ教育ニ付キマシハ、農村ハ農村、

都市ハ都市、ソレノ困難ヲ伴

ツテ居ルノデアリマス、一般青年

學校ノ教育ニ付キマシテハ、第一

ニ公民教育、其ノ公民教育ノ方面

ニ於キマシテ、只今御指摘ニナリ

マシタヤウナ從來ノ誤ツタ教育ノ

理念ヲ是正シ、民主主義的、平和

主義的教育ヲ再建シテ行キタイト

云フ風ニ存ジテ居リマス

ソレカラ第二ノ青年學校ノ教育

ノ目標ト致シマシテハ、職業教育

ト云フコトニ力ヲ入レタイト云フ

風ニ考ヘテ居リマス、此ノ職業教

育ト申シマシテモ、單ナル先程申

シマシタヤウニ技術ノ斷片ヲ教ヘ

ルノデハナクシテ、本當ノ人間ノ

生活ノ有機的ナ一部トシテ精神

的ノ神聖的ノ意味デナイ精神

的ノ生活ノ一部分トシテ技術的ノ

教育、技術ヲ通シテ人間ヲ鍛鍊ス

ル先程御話ノアリマシタヤウナサ

ウ云フ意味ニ於テ人間ヲ作り上ゲ

ルト云フ方向ニ向イテ行カナケレ

バナラナイト存ジマス、サウ致シ

マス、詰リ青年學校ヲ制度上モ

ドウ云フ風ニ立テ、行クカト云フ

コトガ直チニ問題ニナリマス、

デ、是ハ青年學校ノ男子ノ義務制

ヲ女子ニ活用スルト云フコトモ問

題デアリマス、又青年學校ヲ上

ノ學校ニ直結スルト云フヤウナコ

トモ問題ニナツテ參リマス、デ只

今ハ中等學校トナツテ居リマス譯

デアリマス、之ヲ專門學校的ノ取

扱ヒラスルト云フヤウナコトハマ

ダ考ヘテ居リマセヌ、併シ青年學

校制度一般ニ付キマシテハ、隨分

教育界或ハ世間ノ有識者一般ノ與

論ニモナツテ居ル譯デゴザイマス
シ、此ノ點ハ具體的ノ制度ノ面ニ
於キマシテハ、最近ニ發足スルコ
トヲ豫定サレテ居リマス内閣直
屬ノ教育刷新委員會ニ於テ十分檢
討致シ、又「アメリカ」ノ教育視察
團ガ殘シテ行カレマシタ報告書ニ

モ觸レテ居リマスシ、サウ云フ點
モ十分研究致シマシテ、此ノ委員
會ノ意見ヲ徵シ、更ニ又一般ノ輿
論モ十分參考ニ致シマシテ、文部
省トシテ善處シタイト存ジテ居ル
次第デアリマス

○安平委員 只今ノ文部大臣ノ御
答辯ノ中ニ專門學校ニ昇格スルト
云フヤウナコトハ考ヘテ居ラナイ
マダ考慮ノ中ニ入レテ居ラナイト
云フヤウナ御答辯ガアリマシタガ
私ハ寧ロ此ノ點ガ大事ナ所デハナ
カラウカト思フノデアリマス、今
勞働シナガラ學校ヘ行クト云フヤ
ウナコトガ、經濟的ナ色々ナ條件
又ハ時間、サウ云フヤウナモノニ
制限サレマシテ、上ノ學校ヘ行ク
實力ハアリナガラ、サウ云フ條件
ノ爲ニ專門學校ニ上レズニ遂ニ埋
レ木ニナツテシマツテ、アタラ優
秀ナ青年ヲ其ノ當人ノ實力ノ百
「パーセント」ヲ發揮スルコトガ出
來ズニシマフト云フヤウナ點ガ多
多アルノデアリマス、斯ウ云フ點
ヲ生カス意味ニ於キマシテモ、工
場内ニ於ケル若シクハ農村ニ於ケ
ル青年學校ヲ特ニ專門學校程度ニ
引上ゲル、而モ斯ウ云フ點ハ特ニ

國庫補助或ハ國庫負擔ト云フヤウ
ナ點デ出シテ戴キタイト思フノデ
アリマシタガ、此ノ點ヲ特ニ文部大
臣ハ實現スルベク努力スル御意思
ガアリマスカドウカ御聽キシタイ
ト思ヒマス

○田中國務大臣 現在ノ青年學校
ノ數ハ非常ニ多數ニ上ツテ居リマ
ス、其ノ内容ハ實ハ率直ニ申シマ
スト、或ハ教職員ノ陣容ニ致シマ
シテモ、又事務的施設ニ致シマシ
テモ、專門學校ノ水準ニ之ヲ昇格
致シマスコトカラ考ヘテ見マスル
ト、甚ダ遠イヤウニ存ジテ居ルノ
デアリマス、又日本現在ノ國力其
ノ他ヲ勘案致シマスルト、專門學
校自身ノ數ガ餘程多過ギルヤウナ
狀態デアリ、殊ニ工業專門ニ於キ
マシテハ、終戰後戰時中ニ膨脹致
シマシタ所ノモノヲ整理スルノニ
隨分苦心ヲ致シテ居ルヤウナ譯デ
アリマス、唯學校ヲ減スト云フノ
ガ目的デハアリマセヌ、殘シテソ
レヲ充實サセルヤウナ方向ニ實ハ
向イテ居ルヤウナ次第デアリマス、
少シ話ガ傍ニ外レマスケレドモ、
醫學專門學校ニシテモ、同ジヤウ
ナコトガ言ヒ得ラレルノデアリマ
ス、此ノ點、只今御話ノ青年學校
ヲモツト充實スル必要ガアルデハ
ナイカト云フ意味ニ於キマシテハ
御同感至極デアリマスケレドモ、
只今ノ青年學校ヲ近キ將來ニ於テ
專門學校ニ昇格スルト云フコトニ
ナリマスルト非常ニ多數ノ專門學

校ガ全國ニ出來ル譯デアリマス、
而モ内容ガ充實シテ居ナイト云フ
コトニナリマスノデ、此ノ點ハ餘
程考慮シナケレバナラナイノデハ
ナイカト云フ風ニ存ジマス、併シ
青年學校ノ充實ノ必要ト云フ意味
ニ於テハ御同感至極デゴザイマス
○安平委員 更ニ文部大臣ハ去ル
二十日ノ委員會ニ於キマシテ、現
在ノ教員組合ガ強化サレデモ教育
會ヲ打潰ス意思ハナイト云フヤウ
ナ御答辯ガアツタヤウニ承リマス
ガ、私ノ經驗ニ依リマス、偶ニ教
育會ガ教員組合ヲ壓迫スルト云フ
ヤウナ事實ヲ私ハ體驗シテ居ルノ
デアリマス、教育會ノ中ニ役員ソ
レカラ視學、斯ウ云フヤウナモノ
ト結託致シマシテ、折角教員組合
ガ芽生エ、健全ナル勞働組合ニ發
展シヨウトスルト、ソレヲ單一物
ニシテシマヒマシタ色々ナ干涉ヲ
シテ、其ノ教員組合ニアベコベニ
打ち潰サウトスル意圖ガ見ラレタ
ノデアリマス、幸ニ此ノコトハ縣
當局ニ私共ノ關係者ガ參リマシテ
ソレヲ食ヒ止メ、教員組合ヲ組織
スルコトニ成功ヲシマシタガ、將
來恐クハ斯ウシタ教育會ト云フモ
ノト教員組合ト云フモノガ、片方
ノ教育會ハドウシテモ保守的ニ流
レ易クナルシ、教員組合ガ進歩的
ナ線ヲ辿ラウトスル場合、此ノ兩
者ガ色々ナ點ニ於テ摩擦相剋ヲ起
スヤウナ危險ガナイトハ言ハレナ
イノデアリマスルガ、私ハ此ノ際

教育會ヲナクシテ教員組合一本ニ
シタ方ガ適切デハナイカト云フヤ
ウニ過去ノ經驗カラ考ヘルノデア
リマスガ、此ノ點ニ付テハ文部大
臣ノ御意向ハドウデゴザイマスカ
○田中國務大臣 文部省ノ立場ト
致シマシテハ、大日本教育會ニ對
シテ色々終戰後批判ヲ耳ニ致シマ
スノデ、目下此ノ改革ニ努力シテ
居リマシテ、以前ノヤウナ天降リ
的、官僚的ナ色彩ヲ拂拭致シマシ
テ、大日本教育會自身ガ會長其ノ
他ノ役員ヲ選ブト云フヤウニヤツ
テ居リマスコトハ或ハ御承知カト
存ジマス、併シソレノミデハ足リ
マセヌ、ヤハリ戰時中重要ナ「ボ
スト」ヲ占メテ來タヤウナ人々ハ
假令教職員適格審査ニ引掛カラヌ
デモ、遠慮スベキデアルト云フ建
前ヲ我々ハ執ツテ居リマス、サウ
云フ意味ニ於キマシテ此ノ大日本
教育會ハ本當ノ進歩的、又民主的
ナ教育理念ヲ理解スルヤウナ人々
カラ構成サレルヤウニナル、ソレ
デ以テ今マデ寧ロ活動ガ鈍ツテ居
ツタ所ノ教育會ニ活ヲ入レルコト
ニナリハシナイカ、サウ云フ意圖
デ、寧ロソレヲ止メテシマフト云
フヨリハ正シイ方面ニ向ツテ行ク
コトヲコチラデ勸奨シテ居ルヤウ
ナ狀態デゴザイマス、此ノ點ニ付
キマシテハ輿論ノ大日本教育會ニ
對スル批判ト云フモノモ隨分與ツ
マシテ大イニ感謝致シテ居ル譯デ

アリマス、所デ此ノ新クニ起ツテ
參リマシタ所ノ教員組合運動ト大
日本教育會トハドウ云フ關係ニア
ルカト申シマス、是ハ各々其ノ
目的ニ忠實デアルト云フコトデア
リマスナラバ決シテ相剋摩擦ヲ生
ズベキモノデハナク、分業ノヤウ
ナ風ニナツテ居ルモノダト云フヤ
ウニ考ヘテ居リマス、若シサウデ
アリマシタナラバ、只今ノ御指摘
ノヤウナ事例モ起リ得ナイコトカ
ト思ヒマス、併シ御話ノヤウナ事
實ガ確カニアツタト云フコトデア
リマスナラバ、是ハ大イニ大日本
教育會ノ關係者ニ於テ反省シナケ
レバナラナイコトト存ジテ居ル譯
デアリマス、教員組合ノ方ハ教育
内容ノ改善ト云フヤウナ方面ヨリ
モ、詰リ教員ノ生活權ノ擁護ト云
フ所ニ重點ガアルモノデアリマス、
大日本教育會ノ方ハ生活擁護ノ問
題ガ主ニナツテ居ルノデハナクテ
一般教育ノ改善ト云フヤウナ、詰
リ教育「プロパー」ノ方ガ問題ニナ
ツテ居ルト思フノデアリマス、各
各其ノ本來ノ使命ニ忠實デアアルナ
ラバ摩擦ハ起ルベキデハナイト云
フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス
○安平委員 更ニ教員ノ生活問題
デアリマスガ、曾テノ閣議ニ於テ
文部大臣ガ大イニ努力致サレテ教
員ノ罷業禁止ノ案ガ取止メニナツ
タト云フコトハ大イニ多トスルノ
デアリマス、又過日ノ御答辯ニ依
リマス、教職員ガ非常ニ生活程

度ガ低カツタモノヲ官吏程度ニ引上ゲルト云フヤウナ御言葉アリマシタガ、現在ノ教職員ノ給料ト云フノハ、聞及フ所ニ依リマス、餘リニモ低過ギハシナイカ、殊ニ御承知ノヤウニ、教員ハ親ヨリモ兒童ニ對シテ非常ニ強イ影響力ヲ持ツテ居ルノデアリマス、斯ウシタ點カラ、現在ノ教員ノ給料ヲ引上ゲ、生活自體ヲモット、向上サセテコソ本當ニ兒童ニ對スル立派ナ民主主義的ナ教育ガ行ハレテ行クノデハナカラウカ、生活ノ不安ガアツテドウシテ兒童ニ對シテ誠心誠意、良心ニ誓ツテ恥ヅカシカラヌ教育ガ出來ヨウカ、斯ウ云フ觀點ニ立ツテ考ヘマス場合、過去ノ試驗地獄ヲ現出シ、而モ兒童ノ實力ヲ無視シテ情實のヲ採用、贈リ物ノ多寡ニ依ツテ其ノ子供ノ成績ガ左右サレルト云フヤウナコトガ往々アツタノデアリマスガ、サウシタコトヲシナクテモ、自ラノ生活ヲ確保シ、十分ニ教員トシテノ義務ヲ果セルヤウニシナケレバナラヌト思フノデアリマスガ、尙ホ一層ノ教員ノ給料ノ引上、待遇ノ改善ヲ御考ヘニナツテ居ルカドウカ、此ノ點ヲ伺ヒタイト思ヒマス

ナリマシタ、其ノ程度ハ一般官公吏並ト云フコトデゴザイマス、實ハ從來教職員ノ待遇ハ官公吏並ニ達シナイコトガ著シカツタノデゴザイマシテ、或ハ平均給料ニシロ或ハ昇給ノ「スピード」ニ致シマシテモ、非常ニ遅レテ居リマシタガ此ノ點ハ今度取返シ得タノデハナイカト存ジテ居リマス、唯併シ理想ヲ申シマス、教員ハ一般官公吏ヨリモツト優遇シタイノデゴザイマシテ、教育ノ特別ノ使命ニ鑑ミマシテ、只今御話ノヤウナ色色ナ弊害ガ起ラナイヤウニドウシテモシナケレバナリマセヌ、唯今日國家窮乏ノ際、軍備ニ費シテ居ツタ金ヲ皆教育ノ方ニ持ツテ行キタイト云フ氣持ハ山々デゴザイマスケレドモ、目下ノ狀態ト致シマシテハ、ソコマデ要求出來ナイヤウナ狀態ニアル譯デアリマス

○安平委員 引上ゲラレタ御シヤル現在ノ教職員ノ平均給料ガ今御分リニナリマシタラ御知ラセ願ヒタイト思ヒマス

○田中國務大臣 只今記憶シテ居リマス所デハ、一番上ノ所ヲ申上ゲマス、校長並ニ教頭級ニ付キマシテ二千四百圓ト云フコトデゴザイマス、是ハ併シ基本給デアリマシテ、其ノ以前ニ色々諸手當ガ付イテ參ル譯デアリマス、ソレカラ念ノ爲ニ申上ゲテ置キマスガ、更ニ一般官公吏ノ待遇改善ハ其ノ上ニ又被ツテ來ル譯デアリマス

○田中國務大臣 國民學校並ニ青年學校ノ教職員ニ付キマシテハ、幸ヒ大藏當局其ノ他ノ關係諸方面ノ非常ナ同情ト理解トニ依リマシテ此ノ度ノ豫算ニ計上スルコトニ

トヲ御承知置キテ御願ヒシテ置キマス

○安平委員 最高デスカ

○田中國務大臣 最高デス

○安平委員 最高ト云フノハ平均ト云フ譯デヤナイノデスネ、一番高イ所ダケデハ困ルノデス

○田中國務大臣 唯併シ其ノ點ニ付キマシテモ一般官公吏並ニ...

○安平委員 若シ御分リニナラナケレバ、後デ詳細ニ知ラセテ戴キマス

○田中國務大臣 下ノ方ハ次ノ機會ニ申上ゲマス

○安平委員 平均ヲ聽キタイ、上ノ方ヲ聽イテ見テモ仕方ガナイ、ソレデハ其ノ點デ切ツテ置キマス、ソレカラ私ハ是ハ委員諸君ニ御願ヒシテ置クノデアリマスガ、先日ノ質問ノ際ニモ、川崎君ガ横カラ何ダカ政府委員ニ代ツテ答辯ナサレルヤウナ態度ヲ執ラレシ今日モ簡單々々ト云フヤウナ言葉ガアリマシタガ、此ノ問題ハ非常ニ重大ナ問題デアリマスルカラ、我々モ政府當局ニ向ツテ將來シツコイマデニ繰返スカモ知レマセヌ、サウ云フコトニ付テ委員諸君ハ十分慎重ナ紳士的ナ態度ヲ執ツテ貰ヒタイト思ヒマス、我々ノ背後ニハ多クノ勞働者、教職員ガ居ルコトヲ忘レナイヤウニ願ヒタイト思ヒマス

○發言スル者アリ

○邊澤委員長 私語ヲ禁ジマス、

モウ濟ミマシタカ——ソレデハ通告順ニ依リマシテ——關谷勝利君

○關谷委員 此ノ法案ヲ通讀致シテ居リマスルト、明確ヲ缺キマスル點ガ四、五アリマスルノデ、此ノ點御尋ネ致シタイト思ヒマス、現今爭議行爲ノ合法、違法ノ區別ガ非常ニ問題トナツテ居ルノデアリマスルガ、本法ハナゼニ其ノ點ヲ明確ニ致シテ居ナイノカ、此ノ理由ヲ承リタイト存ジマス、勞働者ニ其ノ點ヲ明確ニ知悉セシメマシテ、此ノヤウナ方法行爲ハ違法ニナルノデアアルカラ、是ハシテハナラナイ、此ノヤウナ方法行爲ハ合法デアアルカラ差支ヘナイ、斯ウ云フ風ニ今少シク親切ニ明快ニ示サレテハドウカト考ヘラル、ノデアリマス

次ニ生産管理ハ政府ガ屢々聲明セラレテ居リマスル通り違法デアルト聞イテ居ルノデアリマスルガ、之ニ對スル罰則ヲ設クベキデハナイカト考ヘラレタルデアリマス、然ラザレバ此ノ違法ナル爭議行爲ハ如何ニシテ取締ルベキカ、其ノ方法ガナイト考ヘラル、ノデアリマスガ、其ノ取締方法ヲ教ヘテ戴キタイト存ジマス、尙ホ違法ナル爭議行爲ヲナシテモ何等罰則ガナク、且又其ノヤウナ勞働者デモ裁首スルナラバ、第四十條ノ違反トナリ、第四十一條ノ處分ヲ受ケルコトニナルノデアリマスルガ、此ノヤウナコトハ違法ナル爭議行爲ヲ益々助長セシメル結果ニナラナイカ、此ノ點ヲ御尋ネ致シタイト存ジマス

尙ホ此ノ法案ヲ讀ンデ居リマスルト、此ノ中ニハ勞働關係當事者ト云フ言葉ガ非常ニ澤山使ハレテ居ルノデアリマスルガ、是ハ如何ナル理由デアリマスルカ、明快ニ御答ヘ願ヒタイト思ヒマス、尙ホ爭議「ブローカー」ノ如キ者ヲ其ノ中ニ含ムノデアアルカドウカ、是モ御伺ヒ致シタイト存ジマス、又勞働關係ニ關スル主張ト云フ言葉ガアルノデアリマスルガ、此ノ中ニハ重役ノ退陣ノ要求トカ、或ハ利益配當ニ關スル要求トカ、人事其ノ他ノ經營參加ニ關シマスル要求等ガ往々ニシテ出デ居ルノデアリマスルガ、是ハ勞働關係ニ關スル主張ト云ヒ得ラル、ノカドウカ、此ノ點御尋ネ致シタイト存ジマス

尙ホ業務ノ正常ナル運轉ヲ阻害スルモノヲ爭議行爲ト云フト云フノデアリマスガ、生産管理ニ依リマシテ生産ヲ増大シテ居リマス場合等ニ於キマシテハ、考ヘ方ニ依リマス、ソレハ業務ノ正常ナル運轉ヲ阻害スルモノデハナイ、此ノヤウニモ考ヘラレタルデアリマスガ、斯様ナコトハドウ云フ風ニ御考ヘニナツテ居リマスカ、此ノ點ヲ御尋ネ致シタイト存ジマス

尙ホ公益事業トハ公衆ノ日常生活ニ缺クコトノ出來ナイモノヲ云フトアルノデアリマシテ、其ノ第

一條ニ「運輸事業」ト書イテアルノデアリマスガ、生活必需品以外ノ輸送ハ之ニハ含まレテ居ラナイノカドウカ、此ノ輸送事業ノ中ニ於ケル公益事業ノ輸送ト云フモノノ限度ハどの程度デアアルカト云フコトヲ御示シ願ヒタイト思ヒマス

次ニ「勞働爭議の當事者が、双方の合意又は勞働協約の定により別の調停方法によつて事件の解決を圖ることを妨げるものではない。」ト第二十八條ニ規定致サレテ居ルノデアリマスガ、此ノ規定ハ公益事業ニ關スル事件ニ付キマシテ、強制調停ヲ忌避スル爲ニ惡用セラレルコトハナイカドウカ、此ノ點ヲ御答ヘ願ヒタイト存ジマス

尙ホ第三十六條ニ於キマシテ「工場事業場における安全保持の施設の正常な維持又ハ運行を停廢し、又はこれを妨げる行爲は、爭議行爲としてでもこれをなすことはできない。」此ノ章ニハ罰則ヲ設ケテ居ラナイ理由ハ、私達ガ考ヘマスト之ニ依ツテ生ジタル人命ニ危害ヲ及ボシタル場合等ハ當然ソレニ對スル罰則ガアリ、或ハ施設ヲ破壊シタル場合ニハ器物毀棄ト云フ風ナ罰則ガアルガ故ニ設ケテ居ラレナイノデアラウト考ヘサレマスガ、企業ノ維持經營ニ重大ナ支障ヲ及ボスガ如キ施設ノ運行ヲ停廢シ、又ハ妨ゲタル場合ニハ是ハドノヤウニナルノデアアルカ、之ニ對スル罰則ト云フカ、ソナモノ

ガアルカドウカ、此ノ點ドノヤウニナリマスガ、御答ヘテ願ヒタイト存ジマス

尙ホ最後ニ、此ノ法案ガ勞働關係ノ重要法案デアリマスガ故ニ、立案ニ當リマシテハ、勞働關係方面ノ意見モ十分ニ聽取サレタモノデアルト考ヘマスガ、立案經過ノ極メテ簡單ナ説明ト、此ノ立案ニ參畫セラレマシタ、勞働關係方面ノ方々ノ氏名ヲ參考ノ爲ニ承リタイト存ジマス、以上御尋ネ致シタイト思ヒマス

○河合國務大臣 只今七、八點ニ付テ御尋ネガアリマシタ、實ハ私ノ説明モ非常ニ早イ方デスガ、今ノアナタノ御質問モ非常ニ早クテ十分書取ル暇ト、ソレカラソレニ對スル答辯ヲ頭ニ準備スル違ガナカツタノデアリマス、ソレデ順々ニ説明シテ參リマスカラ、御質問ノ點ヲ重ネテ御伺ヒシナガラ御答ヘシタイト思ヒマス、第一番ニ勞働爭議行爲ノ合法違法ト云フ觀點デアリマシテ、ソレニ付テ明確ナ法律ノ規定ヲ缺イテ居ルノデハナイカト云フ御尋ネデアリマシタ、此ノ法律ニ於キマシテハ、第七條デ爭議行爲ヲ定義シテ居リマシテ「爭議行爲とは同盟罷業、怠業、作業所閉鎖その他勞働關係の當事者が、その主張を貫徹することを目的として行ふ行爲及びこれに對抗する行爲」ト云フ風ニ大體ノ輪郭ヲ定メテ居リマス、サウシデソ

レハ業務ノ正常ヲ運營ヲ阻害スルモノダト云フ所ニ客觀的ノ事實ヲ捉ヘテ説明ヲ補充シテ居ルノデアリマス、是デ爭議行爲ト云フモノハ大體ドノ線ニ行クダト云フコトヲ明確ニ致シテ居ル考ヘテ居リマス、唯ソレガ違法デアアルカ合法デアアルカト云フコトニナリマスト、是ハ此ノ法律デ規定スベキコトデナクシテ、日本ノ法則全體カラノ觀點デ行キマセヌト、ソレハ合法、違法ト云フ差別ガ付カナイデアリマス、ソレデ例ヘバ勞働爭議ガ斯ウ云フ線ニ沿フデ行ク中ハ別ニ違法性ハアリマセヌケレドモ、ソレガ刑事問題ニ觸レルヤウナコトガ伴ツテ來マセバ、直チニソレハ違法ニナルト云フヤウナ風ニ解釋スベキモノデアリマス、合法、違法ト云フ言葉モ亦是ハ非常ニ問題ノアル所デアリマシテ、公法的ノ意味ニ於キマス合法、違法ト云フコトナラ、犯罪デアアルカ犯罪デアリカト云フ點デ、分ケテレルノデアリマスガ、民法上ノ問題ノ不法行爲ト云フヤウナ問題ニナリマシテ請求權ヲ伴フ債權的ノ問題ニナリマス、合法違法ト云フコトハ少シ當ラヌノデハナイカト思ヒマス、サウスルトヤハリ正當トカ、正當デアナイトカ云フ言葉ニナルノデハナイカト思ヒマス、是ハ法律ノ問題デ、私ノ獨斷ヲ申上ゲル限リデアリマセヌガ、サウ云フヤウナ問題ガ伴ツテ來マス、

ソコデ合法、違法ノ線デ分ケテ行クト、合法違法ノ定義ヲ先ヅ決メテ、ソレカラ其ノ線デ分ケナケレバ、ナラヌト云フコトニナリマシテ、是ハ勞働法規以外ノ一般法律觀念ニナリマスノデ、此處デ明確ニ御答ヘスルコトハドウカト思フノデアリマスガ、何レニシテモ合法デアアルカ、違法デアアルカ、正當カ、正當デアナイカト云フコトニナリマス、是ハ法律ノ一般概念カラ歸納スベキコトデ、コ、デ規定スルノハドウカト思ヒマス、併シナガラ法律ノ立法事項トシテハ、特定ノ事項ヲ擧ゲテ、ソレハ或ハ多分正當デアラウ、或ハ正當デアナイカラ、此ノ法律デ以テ不法トスル、不正トスルト云フヤウニ立法上ニ書クコトハ少シモ妨ゲヌコトト思ヒマスガ、一般的概念トシテノ爭議行爲ト云フモノニハ大體一ツノ世界的概念モアルコトデアリマスカラ、特ニ必要ノナイ限リハソレヲ掲ゲル必要ハナイト云フ趣旨ヲ御諒承願ヒマス

ソレニ次デ生産管理ノ問題ニ付キマシテ御話ガアリマシタガ、生産管理ノコトハ是ハ外ノ機會ニモ申上ゲマシタ通りニ、正當デアナイト云フ一ツノ見解ヲ取ツテ居リマス、サウシテソレガナゼ正當デアナイカト言ヒマス、度々申上ゲマシタ通りニ、是ハ人間ノ自由及ビ權利ト云フモノノ主張ノ線ニ於キマシテ勞働權モアレバ財産權モ

アル、財産權即チ經營權モアルト云フ風ニ解シテ、ソレヲ侵犯スルコトハ正シクナイト云フ意味ニ於キマシテ正當ナラズト云フ見解ヲ取ツテ來テ居リマス、サウシテ其ノ正當ナラズガ、今申シマシタ多分ハ違法ニナルダラウト云フ「プロバビリテイ」ノ非常ニ多イコトハ申上ゲルコトガ出來マス、ト云フノハ多クノ場合ニ於キマシテ、ソレハ家宅侵入トナリ、或ハ何ト申シマスガ、暴行脅迫ヲ伴フコトガ多カツタリ、色々ソコニ事件ガ起キマスノデ、多クノ場合ニ於テ犯罪行爲ヲ成立セシメタルニ至ルデアラウト云フ「プロバビリテイ」ノ多イコトハ此處ニ申上ゲルコトガ出來マスガ、唯抽象概念トシテ總テ是ハ犯罪行爲ヲ伴フモノナリト云フコトヲ私ハ此處ニ斷言スルコトハ出來ヌ、ト申シマスノハ、ドウ云フコトガアルカト云フコトヲ一々調べテ々々場合ニ向ツテ、ソレヲ包括的ニ申上ゲルコトガ出來ヌケレドモ恐ラク殆ド全部ニ於テサウ云フコトハ犯罪行爲ヲ伴フト云フコトハ言ヘルダラウト思フノデアリマス、此ノ生産管理ト云フモノヲサウ云フ風ニ解釋シテ居リマスケレドモ、此處ニ又繰返シテ生産管理ト云フモノハ特別ニ違法デアアル、之ヲ禁止スルト言ハナクモ、全體ノ法律、日本ノ制度カラサウ云フ風ニ正當ナラズ、恐ラク大部分ニ於テソレハ

犯罪行為ヲ伴フモノヲラウト云フ
解釋デ十分ナル、ソレデ解釋ガ
出來ルト云フ見地ノ下ニ、生産管
理ニ付テ特別ナ法律ヲ規定シテ居
ラヌト云フ趣旨ニ御承知願ヒタイ
ト思ヒマス

其ノ次ノ問題ハ労働關係ノ當事
者ナル文字ヲ用ヒテ居ルガ、労働
關係ノ當事者ト申シマスルト、ヤ
ハリ組合側ト經營者側ト云フ風ニ
解釋シテ宜イト思ヒマス、ソレデ
組合側ト云フモノノ中ニ所謂爭議
「ブローカー」ト御指摘ニナツタ
モノカ含マレルカ含マレヌカト云
フ問題ニナリマスガ、是モ事實問
題デアリマシテ、組合ノ中ニ包含
サレル意味ニ於テ、實質的ニ爭議
「ブローカー」的ノ性質ヲ持つテ
居ルモノハ含ム、併シナガラソレ
以外ノ爭議「ブローカー」ハ當事
者ノ中ニ含マス、サウ云フ風ニ先
ヅ解釋スベキモノヲラウト思ツテ
居リマス

ソレカラ、其ノ次ノ問題ハ労働
爭議ノ問題トシテ人事、經理、經
營參加等ノ問題ガ時々起キテ來ル
ガ、ソレニ對スル考ヘハドウカ、
ソレハ労働關係ニ關スル主張ト言
ヘルカト云フ御質問ト拜承致シマ
スガ、其ノ點ハ此ノ労働爭議ノ目
標ハ大部分労働條件デアルコトヲ
政府モ指導方針トシテ希望シ、殊
ニ先日勞務法制審議會ナド意見
ヲ尋ネテ居リマスル經營協議會ノ
如キモ、人事及ビ經理ノ如キハ經

營協議會デ直接取上ゲナイ方宜
イダラウ、併シ經營者側ニ於テ其
ノ問題ニ付テ成ベク労働側ノ意見
ヲ色々ナ意味ニ於テ求メ、其ノ空
氣ヲ感ズルコトハ必要デアラウ
ガ、併シナガラ經營協議會ニ於テ
其ノ問題ヲ包含シナイ方宜カラ
ウト云フ私共ハ大體ノ見解デ居リ
マスルノデ、人事、經理等ノ面ニ付
テハ出來得ベクンバ労働者關係ノ
問題トシテ取上ゲルコトヲ獎勵シ
タクハナイ考ヘデアリマス、是ハ
主トシテ労働條件ニ行キタイト云
フ考ヘデ居リマスルガ、労働關係
ニ關スル主張ト云フ中ニ其ノ文字
ガ入ルカト云ヘバ、ソレハ私ハ入
ルト思ヒマス、ト申スノハ、労働
關係ノ主張ト云フモノハ、法律デ
限定セヌ、以上ハ、労働關係ニ件
フ關係ノアル事柄ハソレヲ排除ス
ルト云フ法律ノ趣旨デナイト云フ
風ニ私ハ解釋シテ居リマス

ソレカラ其ノ次ノ問題ハ、業務
ノ正常ナル運営ヲ阻害スルト云フ
言葉、是ハ阻害スル行為ヲ謂フト
云フコトニナツテ居リマシテ、ソ
レデ生産管理ノ場合増産ト云フモ
ノハドウ云フ風ニ是トノ關係ヲ持
ツカト云フ趣旨ノ御質問ト思ヒマ
スルガ、是ハ二ツニ御答ヘシナク
テハナラヌカト思ヒマス、一ツノ
點ハ、生産管理ト云フモノハ増産
ヲ伴フカラ、ソレデハ生産管理ヲ
認メテ宜イカ、サウ云フ御質問デ
ナカツタカモ知レマセヌガ、其ノ

裏ニ其ノ質問ガアルト存ジマスカ
ラ、一應ノ説明ヲ致シマスガ、増
産ヲ伴フ伴ハナイト云フコトハ、
生産管理ガ正當ナルカナイカト
云フコトトハ、全ク別問題デアリ
マス、端的ニ申シマスレバ、増産
ヲ伴フモノモイカヌモノハイカヌモ
ノダト云フコトト御承知願ヒタイ
ト思ヒマス、サウ云フ意味ニ於キ
マス、其ノ問題ノ半面ハハツキ
リ致シマスルガ、併シナガラ他ノ
半面ニ於テ、言葉トシマシテ、生
産管理ノ増産ト云フモノハ、業務
ノ運営ヲ阻害シナイデ進捗スルデ
ハナイカ、ソレデアルカラサウ云
フ場合ガアルトスレバ、正常ナル
運営ヲ阻害スルト云フコトト衝突
スルデハナイカト云フ意味ノ御質
問トモ考ヘラレマスルガ、既ニ生
産管理ト云フモノヲ労働爭議行為
ノ範圍外ニ出シテ解釋致シマスル
以上ハ、此ノ問題ハ起キナイノデ
アリマス、併シナガラ言葉トシマ
シテ假ニ措キマシテモ、正常ナル
運営ト云フコトハ増産ト云フ結果
的ナコトバカリデハアリマセヌ、
總テ正常ナル運営ニ伴フ一切ノ社
會通念ガアリマシテ、増産ガ出來
タカラト云フコトダケデ、ソレヲ
阻害シナイト云フ意味ニハナラヌ
カラ、是ハ言葉トシマシテモ衝突
スルモノデハナイ、サウ云フ風ニ
私ハ解釋致シマス

マシタガ、運輸事業ト云フコトハ
食糧其ノ他必需品ノ運輸バカリヲ
指スノカ、一般ノ運輸ヲ指スノカ
ト云フ御質問ト拜承致シマス、ソ
レナラバ廣ク一般ノ運輸ヲ指スト
云フ風ニ解釋致シテ居リマス

ソレカラ第二十八條ノ任意協
定ノ問題デアリマスルガ、是ハ或
場合ニハ強制調停ト云フコトハ此
ノ法律ニ於テ勿論認メテ居リマ
ス、併シナガラソレハ決シテ任意
協定ヲ妨ゲルモノデナイ趣旨デア
リマスカラ、任意協定デ得ラレ、
バ、ソレヲ追駈ケテ行ツテ、ソレ
ハ待つテ呉レ、強制調停デアルト
云フヤウナ趣旨ハ一ツモアリマセ
ヌ、任意協定ヲ寧ろ優先スルト申
シマスガ、其ノ方ヲ寧ろ希望シテ
居ル譯デアリマスガ、任意協定ガ
出來ヌガ故ニ強制調停ヲヤルノデ
アリマスカラ、是ハ矛盾スルモノ
デハナイト考ヘテ居リマス

ソレカラ第三十六條ニ付キマシテ
ハ、此ノ罰則ハ工業警察取締規則
ナドニモ罰則ガアリマスルシ、是
ハ特ニ其ノ安全裝置ヲドウトカス
ル爲ニ本當ノ死傷者ガ出來ルト云
フヤウナ——故意ガアツテサウ云
フコトガ出來マスル時ニハ、ソレ
ハ刑法ノ方ニ依ツテ非常ニ重大ナ
犯罪トナル譯デアリマス、其ノコ
トハ労働法規以外ノ法律ニ於テ其
ノ制裁ガ設ケラレテ居リマスルノ
デ、特ニコ、ニ置ク必要ガナイト
云フノデ敢テ書カナカツタ趣旨デ

アリマス、尙ホ御尋ネノ取殘シタ
點ガアリマシタナラバ、御尋ネヲ
願ヒタイト思ヒマス

ソレカラ此ノ法案ヲ立案致シマ
シタ經過ハズツト其ノ當時カラ關
係シテ居リマスル政府委員ノ方カ
ラ御説明シタ方ガ明瞭ダト思ヒマ
ス

○吉武政府委員 ソレデハ御尋ネ
ノ本法案ノ經過ヲ簡單ニ申上ゲタ
イト思ヒマス、實ハ昨年ノ暮ノ議
會ニ労働組合法ヲ提案致シマシ
タ、其ノ時ニ勞務法制審議會ト云
フモノヲ作りマシテ、ソレニ掛ケ
テ労働組合法ノ草案ガ出來、
ソレヲ基ニシテ政府ガ提案ヲシタ
譯デアリマス、其ノ際ニ議會デモ
此ノ労働組合法ヲ提案スルノハ宜
イガ之ニ伴ツテ若シ爭議ガ起ツタ
時ノ所謂爭議ノ調停ニ關スル方法
ト云フモノハドウスルノカ、其ノ
方ノ法律ハ出サナイノカト云フ御
質問ガアツテ、前内閣ノ時厚生大
臣ガソレハ引續キ立案マシテ提出
スルカラト云フ御答辯ガアリマシ
タ、ソコデ議會ガ終リマス、直
チニ勞務法制審議會ニ同様ニ労働
爭議調停ニ關スル法律如何ト云フ
コトデ諮問ニナリマシタ、ソコデ
勞務法制審議會ニ掛ケテ、勞務法
制審議會デハ末弘委員、ソレカラ
鮎澤委員、桂委員——是ハ中央勞
働委員會ノ中立委員ヲシテ居マレ
マスガ、ソレカラ資本家側カラ膳
桂之助氏、篠原氏、ソレカラ労働

者側カラハ松岡駒吉サン、海員労働組合ノ方ノ小泉サン等ノ小委員ニ付託サレマシテ、立案ヲシテ居ツタノデアリマス、其ノ間勿論司令部ノ方トモ連絡ヲ致シマシテ、大體三月ノ終リニ一應ノ草案ガ出来タノデ、ソレヲ新聞デモ御承知ノヤウニ、公聴會ト云フ今マデ例ノナイ方法ヲ執リマシテ、廣ク各地ノ労働組合ノ幹部ノ者及ビ使用者側ノ労働關係ヲ掌ル人々ニ集マツテ戴イテ其ノ草案ニ付テ廣ク意見ヲ徵シタノデアリマス、其ノ意見ヲ參考ト致シマシテ、更ニ草案ヲ練リ直シマシテ、サウシテ最後ニ勞務法制審議會ニ付議サレ決定シテ本議會ニ提案サレタ、斯ウ、云フ經過デアリマス

○閣下委員 大體ニ於テ了承致シマシタガ、此ノ第七條ニ「同盟罷業、怠業、作業所閉鎖その他労働關係の當事者」トアリマスガ、此ノ「その他」ト云フ點ニ付キマシテ御尋ネテ致シタイと思ヒマス 尙ホ公益事業ノ中デ、今ノ輸送デアリマスガ、海上輸送等ニ於テ機帆船ガ運ンデ居リマス物資ノ中ニハ、直接日常生活ニ缺クベカラザル物モアリマスガ、左程緊急已ムヲ得ザルモノデモナイト云フ風ナ物モナイデハナイノデアリマス、其ノヤウナ場合ノ海上輸送ナドモヤハリ是ガ公益事業ノ中ヘ含まレルカドウカ、重ネテ之ヲ御尋ネ致シタイと思ヒマス

尙ホ先程御尋ネ致シマシテ御答辯ガナカツタノデアリマスガ、達法ナル爭議行爲ヲ致シマシテモ罰則ガナイ、其ノヤウナ労働者デモ減首ヲスルト云フコトニナルト、第四十條ノ規定ノ違反ニナツテ、第四十一條ニ依ツテ處罰ヲ受ケル斯ウ云フヤウナコトニナリマスノハ使用者側ノミニ非常ニ苛酷ニ當ツテ居ルト云フ風ニ考ヘラレルノデアリマスガ、其ノ點御尋ネテ致シタイと思ヒマス

○河合國務大臣 只今ノ第一ノ御質問ハ其ノ他ノ爭議行爲ト云フノハ、ドウ云フヤウナ意味ニナツテ居ルカト云フ御尋ネデアリマシタガ「ボイコット」ノヤウナ行爲、或ハ「ピケツチン」ノ見張、爭議破リガ人ツテ來ルノヲ見張ラシテ居ル、サウ云フヤウナコトナドヲ言フノデアリマシテ、一々茲ニ掲ゲナクテモ大體サウ云フ線ニ滑ウタモノヲ考ヘテ居リマシテ、法律トシマシテハ體裁上「その他」ト云フコトデ包含シタノデアリマス

ソレカラ其ノ次ノ御質問ノ運輸事業ニ機帆船ノ日用品デナイモノヲ送ルヤウナモノモ包含スルカト云フ御尋ネデアリマスガ、大體輸送ハ機帆船ニシマシテモ船舶ニシマシテモ、客レ物デゴザイマスカラ、時々ヤハリ物が變ルノデアリマス、ソレデ私モ機帆船ノ仕事ナドニ關係シタコトガアリマスガ、

石炭ヲ積ムヤウナコトニナツテ來ルコトモアレバ、魚ヲ積ムヤウナコトニナルコトモアル、愚クスレバソレガ密輸入船ニ使ハレタト云フヤウナコトモアリマスノデ、大體輸送關係ニ於テハツキリシテ、是ハ生活ニ關係ノナイモノダ、或ハ生産ニ關係ノナイモノダト云フ風ニ分ケルト云フコトガドウカト思ヒマスガ、大體トシマシテハサウ云フモノモ一應包含シタ全體の觀念トシテノ輸送ト云フモノヲ押ヘテ居ル次第デアリマス

ソレカラ第三番目ノ問題ハ、此ノ四十條ノ爭議行爲ヲナシタコトヲ理由トシテ労働者ヲ解雇シテハナラヌト云フコトニナツテ居リマスガ、是ハ勿論正當ナル爭議行爲ヲヤウタ労働者ヲ言フノデアリマシテ、不當ナル爭議行爲ヲヤウタ者ヲ保護シテ居ルノデアリマセ

○達澤委員長 閣下サンモウアトアリマセスカ 「ソレデハ通告順ニ依リマシテ閣下」

○閣下委員 尙ホ一番最初ニ御同ヒシタイノハ、政府ハ此ノ次ノ議會ニ労働基本法ト云フベキ労働保護法案ヲ出スト云フコトガ新聞ニモ掲載サレ、又去ル二十日ノ當委員會ニ於テ厚生大臣ハ左様ナ御考ヘテ持ツテ居ルト云フ御答辯ガアツタヤウニ記憶致シテ居リマスガ、果シテ實際ニ此ノ次ノ議會ニ労働保護法案ヲ御出シニナル御考

ヘデアアルカドウカ、伺ヒタイと思ヒマス

○河合國務大臣 只今ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、是ハ間違ヒナク出ス積リデアリマス、ソレデ只今色々準備ヲ致シテ居リマシテ、此ノ間ハ労働者及ビ經營者側ニモ色々御尋ネツタリ、又寄リノ集ツテ戴イテ種々懇談ヲ致シタリシテ居リマス、八月一パイ位マデハ大體ノ案ヲ作りタイ積リデ、細カイ「スケヂュール」ヲ作り、ソレニ依ツテ進メテ居リマス

○閣下委員 只今ノ厚生大臣ノ御答辯ヲ得マシテ、非常ニ結構ナコトト欣ンデ居リマス、大體私共ノ考ヘトシテハ、労働組合法制定ノ時、若シクハ其ノ前ニ此ノ労働調整法案ヲ根源ヲ成シマス労働保護法案ヲ御出シニナルノガ本當デハナイカト思ヒマス、此ノ労働保護法案ヲ出サズニ、單ニ組合法ヲ制定シテ、サウシテ團體交渉權ヲ爭議權ヲ認メタガ爲ニ、今日ノヤウナ食糧事情、其ノ他ノ經濟事情カラ紛爭爭議ガ起ルノハ當然ノ歸結デアリマス、ソレガ爲ニ此ノ爭議ヲ抑制シヨウ、調整シヨウト云フノガ此ノ調整法案ダト思ヒマス、爭議ノ起ル組合法作り、之ヲ抑制スル調整法案ヲ出シテ、其ノ後デ保護法案ヲ出ス、是非非常ニ本末顛倒シタモノダト思ヒマス、茲ニ大キナ矛盾ガアリ、順序ヲ誤ツト居ルト云フコトハ、厚生大臣モ

御認メニナルコトト思ヒマス、所デ此ノ調整法案ヲ見マス、非常ニ通俗のニ分リ易ク口語體デ書イテハアリマスガ、ドウモ我々ノ考ヘル法律トハ縁ガ遠イヤウニ思フノデアリマス、例ヘバ第二條ニ於テハ労働關係ノ當事者ノ心得ヲ規定シ、第三條ニ於テハ政府自身ノ心得ノヤウナモノヲ規定シテ居リマス、是ハ特別ノ法律デアリマスカラソレデ宜イトシマシテモ、其ノ實質ヲ見マスルト、斡旋トカ調停トカ仲裁トカ非常ニ細カク分類規定シテ、労働爭議ヲ調停シヨウト云フ意圖ハ能ク分ルノデアリマスガ、ズツト通覽シテ見マス、是ハ極端ニ言ヘバ労働者ノ爭議權ヲ剝奪スル、或ハ彈壓スル法律デアルト云フ聲モ聞キマスガ、如何ニ善意ニ解シテモ、確カニ是ハ労働爭議ヲ去勢スル方法ダト私ハ信ジテ居リマス、ソレデアリマスカラ現在ニ於テ労働大衆、全産業界ノ労働者ガ非常ニ露々ノ非難攻撃ノ聲ヲ浴セ、此ノ法案ヲ阻止スル爲ニ非常ニ猛烈ナ運動ガ起ツテ居ルノデアリマシテ、是ハ厚生大臣モ御承知ダト思ヒマス、斯ウ云フ際ニ斯ウ云フ法律ヲ制定スルト云フコトハ其ノ時期デナイト思ヒマス、ソコデ私ハ只今厚生大臣ノ仰シヤウナウニ、保護法案ハ此ノ次ノ議會ニハ必ズ出ス、サウ云フ御意思ガアルナラバ其ノ時ニ之ヲ審査シテ、新シク御出シニナル所

ノ保護法案ト對照シ、考究シ、檢討シ、サウシテ此ノ調整法ヨリモヨリ良イ、本當ニ調停ノ實効ヲ擧ガ得ル適切有效ナル法律ヲ作ラレルノガ宜イノデハナカ、サウ云フ風ニ固ク信ズルノデアリマスガ厚生大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイ河合國務大臣 只今ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、勞働保護法ノ問題ニ付テモ色々御尋ネガアツタヤウデスガ、勞働保護法ヲ出シテ勞働組合法ヲ出スカト云フ問題ニ付キマシテハ、昨年ノ終戦後ノアノ時ノ情勢ヲ御覽下サレバ、其ノ間ノ事情モ分ルト思ヒマス、一方勞働保護法ト云フモノハ大部ノモノデアリマシテ、相當厚生省トシテモ研究ハシテ居リマシタガ、アノ民主主義ニ轉換シタ時ニ、其ノ線ニ沿ウテ全體ヲ急ニ改メルト云フノハ、是ハ事實問題トシテ中々出來ナカッタ、去年十一月ノ法律ヲ民主主義ニ切替ヘタト云フ意味ニ於ケル勞働保護法ハ、中々單純ニ出來ルモノデハナク、是ハ色々輿論モ聞キ、ソレカラ勞働者側ノ意見モ聞イテヤラナケレバナラヌ問題デアリマシテ、是ハドウシテモ時ヲ要スルモノナノデアリマス、昨年ノ終戦後ソレヲ民主主義ニ振替ヘルト云フ意味ニ於テ、急ニ作ルト云フコトハドウシテモ出來ナカツタ事情デアル、是ハ事實ダト思ヒマス、サウスレバ勞働組合法ヲヤハリ勞働保護法ト一緒ニ作ツタ

ラ宜カラウト云フコトニナリマスト、今度ハ勞働組合法ヲ待タナケレバナラヌト云フコトニナリマスノデ、是ハアノ時ノ情勢ハ民主主義國家ニ振替ヘテ、勞働問題ト云フモノニ一轉機ヲ來タスノダト云フコトガ目標ニナツテ居リマシテ多年勞働權ト云フモノハ壓迫セラレテ來タト云フヤウナ事態ニナツテ居リマスカラ、組合法ハ兎モ角モ作ラナケレバナラヌト云フノハ是ハ輿論デアツタ、又實際ノ政治デアツタト私ハ思ヒマスカラ、此ノ法律ニツガチハグニナツタト云フコトニ對シテハ、其ノ事情カラ推シテドウゾ御諒承願ヒタイト思フノデアリマス、サウシテ其ノ中間ニソレデハナセ調整法ヲ出シタカト云フ問題ガ、御質問ノ要點ニナツテ居リマスルガ、是ハ今申シマシタ通りニ、勞働保護法ト云フノハ最低ノ基準ヲ大體決メタモノデアリマシテ、勞働保護法ガ出來ルカラ「ストライキ」ガ起キナイモノデハナイノデス、ヤハリ其ノ最低基準以上ノ問題ニ付テ色々起ル總テノモノゾ、保護法全體デ「カバリー」シテ、サウシテ天國ノヤウナモノヲ出スト云フコトハ、到底不可能デアリマス、是ハ最低基準ヲ大體何處ノ法律デモ抑ヘテ居リマス、ソコデサウスレバ保護法ガ完全ニ出來テモ、「ストライキ」ト云フモノガナクナル譯デナイ、其ノ上ニ御承知ノ通りニ今度

ハ爭議ト云フモノハ、經濟界ノ動搖ト申シマスルカ、私ハ能ク國民經濟ノ斷片ニ打突カツタト申シマスルガ、サウ云フ「ツ」茲ニ變革ガアツタ、サウシテ食糧危機ガ起リ、「インフレーション」ガ起キサウシテ生活難ト云フ問題ガ起キテ來テ、俸給ノ上ニモ御承知ノ通り變革ヲ來シテ居ルト云フヤウナ時代ニナツタノデアリマスルカラ是ハヤハリドウシテモ爭議ノ起ルノハ當然ノコトナノデアリマス、ソレデハ爭議ガ起キル儘ニシテ宜イカト云ヒマス、ソウハ參ラヌノデス、二ツノ面ニ付テ考ヘナケレバナラヌ、第一ノ面ハ、出來ルダケ爭議ハ未然ニ防止シテ、オモヒノ了解デ巧ク落着クモノハ落着ケヨウデヤナイカト云フ「ツ」線モウ「ツ」線ハドウシテモ特別ノモノニハ爭議ハヤツテ貫ツテハ困ル、又特別ノモノニハ拔打爭議ハ困ルト云フ公益ノ面、此ノ二ツノコトハドウシテモ起キル、ソレデ第一ノ面ハ、勞働法ニ豫想シテ居リマシタ所ノ調停、仲裁ト云フヤウナコトデス、是ハ勞働法ニ書イテアル、ケレドモ其ノ手續ナドモ勞働法ニ書クノハ「ツ」デアル、前ニ石田一松君ノ御質問ノ如ク、二ツノ法律ハ要ラヌデヤナイカ、ソレモ「ツ」考ヘ方デアル、併シ前ニ法律ハ生マレテシマツタコトダカラ、過去ニ遡ツテモ仕様がナイ今度ハヤハリソコデ追駈ケテ調停

仲裁ト云フコトヲ決メタ、是ハドチラノ品類モシテ居ルノデナイ、ドチラガドウト云フコトハナイ、何モ問題ハドチラニモ觸レテ居ナイ、オモヒニ仲善ク妥協シテ、問題ヲ争ヒニ出サナイデ、爭議行爲マデ行カナイデ行カウデヤナイカ是ハ世ノ中ノ爲ニ宜イコトハ決マツテ居ル、ソレガ爲ニ斡旋、仲裁調停、御話ノ通り少シ細カクナツテ居リマスケレドモ、是ハ何處ノ國デモ大體サウ云フ線ヲ辿ツテ居ル、凡ユル方法ヲ盡シテ、而モソレデ勞働委員會ト云フ中心機關ヲ置ク、是ハ勞資双方カラト中立者ヲ入レタモノデ、非常ニ「デモクラチック」ニ考ヘラレテ居ル機關デアル、是デヤツテ、一ツ落着ケヤウデヤナイカ、是ハ人情ノ自然デアリマス、又政治トシテモ國家トシテモ、是ハ此ノ線デヤツテ行クコトハ、私ハドウナニモ異論ガナイト考ヘテ居リマス、モウ「ツ」ノ點ハ公益ノ點デス、此ノ點ヲ目シテ誤解シテ居ル、私ハ端的ニ中シタイ、勞働者ノ壓迫ナドト云フ御考ヘガアチラコチラニアルヤウデゴザイマスガ、私ハ斷ジテサウハ信ジナイ、是ハ本當ニ公益ノ擁護デアル、此ノ點ハドウシテモ人間ノ自由權利ト云フモノハ、無制限ナモノデアリマセヌ、憲法第十一條ニモ自由權利ハ公益ノ爲ニ利用サレネバナラヌト云フ草案ニナツテ居リマス、又第十二條ニハ

自由ノ限度ハ公益デアル、「マージン」ハ公益デアルト云フ要旨ノコトガ出テ居リマス、其ノ外アノ新憲法全體ヲ通覽シマシテ、爭議權ガ無限絕對ノモノダト決シテ認メテ居リマセヌ、ソレヨリモ一般公衆、大衆ノ公益ガ必要デアル勿論其ノ大衆ト云フ中ニハ多クノ勤勞者、多クノ勞働者ヲ含ンデ居リ、ソレガ非常ニ大キナ部分ダト云フコトハ存ジテ居リマスガ、權利トシテハオモヒノ權利デアルガ權利ト云フモノモ全體國家組織ノ上カラ考ヘルベキデ、茲ニ國家組織ノ規律ト云フモノガナケレバナラヌ、ソレハオモヒノ爲デアル、其ノ中ニ勤勞者、勞働者ノ非常ニ大キイモノガアル、ケレドモ勤勞者、勞働者ト云フ其ノ面バカリノ利益ガ、國家全體ノ利益ダトハ直チニ斷ズルコトハ出來マセヌ、其ノ間ニ自ラ差別ガアリマス、是ハ深ク御考ヘシ願ヒタイ點デアリマス、サウシマス今度ハソレニ對シテドウスルカト云フコトニナリマスルカラ、ソレニハ官吏、消防、看護婦ノヤウナ職員ニ對シテ爭議ヲ禁止スル、是ハ前々カラ言ヒマシタ通りニ、之ヲ禁止スルニアラズンバ、萬一「ゼネスト」ノ如キコトガ起レバ、ドウ云フ事態ガ生ズルカト云フコトニ對シテ、日本ノ國家ノ官吏ハソシナコトヲヤルモノカト云フ御話ガアル、昨日モ陳情デ、ソシナコトハヤリハセヌ

カラ、心配御無用ダト御話ニナルガ、ソレハ無用デアリマセウ、無用タラシコトハ私ハ切實ニ希望シテ居ル、ケレドモヤハリ國家ノ根本法規トシマシテハ、サウ云フコトハアツテハナラヌダト云フコトハ決メテ置カナケレバ、現實ノ事實ト將來ニドウ云フコトガ起キルカモ知レヌト云フコトハ、一緒ニスル譯ニ行キマセヌ、是ハドウシテモ決メナケレバナリマセヌ、モウ一ツノ點ハ不意打爭議、是ハ申スマデモナク此ノ間山手ノ實例ナドヲ御覽ニナルト分ルガ、是ハ現實ノ問題デアリマス、サウスレバ昨日モ御話ノ通り、イヤソレハ輿論ノ壓迫ガ強イカラ、アレダツテヤレヌコトハナイデヤナイカ、サウ心配ハナイ、恐ラクサウ云フコトノ起キヌコトヲ希望シテ居リマスケレドモ、現實ニ起キテ居ル事實サヘアルノダカラ、是ハドウシテモ日常生活ノ安固ノ爲ニハ、斯ウ云フ拔打爭議ト云フモノハ停止シナケレバナラヌト云フコトニナリマスルト、爭議權ノ制限、是ダケデス、是ダケヲ以テ勞働ノ壓迫ダト言ハレ、バ、私ハ斷ジテ其ノ非難ハ受ケマセヌ、其ノ點ヲドウカ御諒承願ヒタイ、私ハ決シテ勞働階級ノ壓迫トカ何トカ、サウ云フ思想ヲ此ノ齡ニナウテ持チマセヌ、國家ノ爲ニヤルニハ斯ウダト云フ信念ノ下ニヤツテ居ルト云フコトヲ、ドウゾ御諒承願ヒタイ

○山本(勝)委員 議事進行ニ付テ、

○達澤委員長 議事進行ニ付テ發言ヲ許シマス

○山本勝委員 此ノ法案ハ今回ノ議會ニ於ケル恐ラク最も重大ナ法案ノ一ツデアラウト思ヒマスルノデ、十分ニ慎重ニ審議ヲ盡スベキコトハ當然デアリマスケレドモ、併シ先般來ノ委員會ノ經過ニ鑑ミマス、随分同ジ質問ガ繰返サレテ時間ヲ取ツテ居ルヤウニ思ハレ

ルノデアリマス、ドウモ質問モ若干ノ重複ヲスルコトハ勿論避ケ難イコトデアリマシテ、其ノコトヲ彼此レ申スノデハアリマセヌガ併シ出來ルダケ要點ヲ質問スルシ

又要點ヲ答ヘテ、重點ヲ明カニスルト云フ方式デ議事ヲ進メテ戴キタイ(ヒヤ)議事ノ進行ヲ妨害スルヤウナ彌次ナドハ勿論禁止

シテ載キタイノデアリマスケレドモ、餘リ繰返シノ長タラシクヤツタ場合ニ「簡單々々」或ハ「サウ云フコトハ分ツテ居ル」トカ云

ツタヤウナ位ノコトハ、是ハドウモ寧ロ已ムヲ得ヌコトデ、ナゼサウ云フコトガ起ルカト言ヒマス

ト、ドウモ議事ノ運び方ガ皆行ツテ居ナイカラデヤナイカ、此ノ前ノ安平君ナドモ御本人トシテハ

勿論十分ニ質スベキコトヲ質シテ居ルンダト言ハレル、誠心誠意ヤツテ居ラレルニ相違アリマセヌ、其ノコトヲ疑フノデハアリマセヌ

ケレドモ、遂ニ最後ニハ委員ニ向ツテ話掛ケラレタ(其ノ通り)ト呼ブ者アリ、此ノ委員ニ向ツテ

委員諸君ト云フ言葉デ話掛ケラレタ時ニ、寧ロ委員長ガ默ツテ居ラレタコトヲ私ハ不思議ニ思フ

「其ノ通り」ト呼ビ、其ノ他發言スル者アリ」

○達澤委員長 靜肅ニ願ヒマス

○山本(勝)委員(續) 私ハ此ノ議事ノ運び方ニ付テ、詰リ要點ヲ盡

スヤウ、而モ成ベク重複シナイヤウニ、又委員ガ委員ニ話掛ケタリ

スルコトノナイヤウニ御注意サレ

ルコトヲ望ムノデアリマス

○達澤委員長 委員長極メテ議事ノ進行ニ不慣レデアリマスノデ、今後常識ヲ大イニ加ヘマシテ圓滑ナル進行ニ努力致シタイト思ヒマス、皆様ノ御協力ヲ願ヒマス(拍手)

○木下委員 厚生大臣カテ懇々ト非常ニ御鄭重ナ答辯ヲ得マシテ感謝シマス、私ノ御尋ネシタ要點ハ

今非常ニ反對ノ輿論ト闘ヒ、此ノ法案ノ阻止ノ運動ガ強ク展開シテ

居ル場合ニ、此ノ法案ヲ審議決定スルヨリモ、先程ノ御説明ノ通り

次ノ議會ニハ勞働保護法案ヲ出スソレナラバ其ノ時ニ此ノ法案モ考

究檢討シテ睨ミ合ハシテヨリ良イモツト有效ナ法律トシテ出シタラ

ドウカ、之ヲ御尋ネシタノデアリ

マス、ソレカラ決シテ彈壓デナイ

ト云フ御説明デアリマスガ、私モ

是ガ絕對ニ彈壓ダト申上ゲタノデ

ハナイ、引延シ策、詰リ勞働爭議ヲ去勢スル一ツノ法案デアアル、全

ク事實其ノ通りダト今デモ固ク信

ジテ居リマス、或ル一方ニ於テハ

調整スルカモ知レナイケレドモ、

去勢スルカノ方ガ私ハ多イト思

フ、今後此ノ法律ガ制定サレテ世

ノ中ニ實施サレタ場合ニ、其ノ實績ヲ見レバ必ズ分ル、去勢ノ力ノ

方ガ調整ヨリモ多イト私ハ信ジテ居ル譯デアリマス、唯來ル議會マ

デ一年トカ二年トカ云フノデナイ

カラ、僅カノ間デアアルカラ此ノ次

ノ議會マデ何トカ之ヲ延バシテ、

審議未了トカ其ノ邊ノ工作ハ私ハ

存ジマセヌガ、延バシテモツト良

イ法案ニシテ出シタ方ガ宜クハナ

イカ、之ヲ御伺ヒスルノデアリマ

ス

○河合國務大臣 只今ノ御質問ニ

御答ヘ致シマスガ、爭議發生數ハ

一時カラ見マスルト少シ衰ヘマシ

タ、ケレドモ又是カシ段々ト失業

者モ増加シマスルシ、ソレカラ補

償打切其ノ他ノ問題ニ關聯シマシ

テ色々生活難ナドノ問題モ出マセ

ウシ、一寸モ前途ヲ樂觀スル譯ニ

ハ行キマセヌ、成ベク爭議ハ起キ

ナイデ日本ノ經濟再建ガ一日モ早

ク出來シコトヲ切望シテ已マヌ次

第デアリマス、ソレニハ起キント

スル爭議ヲ一日モ早ク豫防シ、旨

ク協議ガ付カヤウニ希望シマスノ

デ、此ノ法律ハ一日モ早ク實施シ

タイ積リデ居リマス、サウシテ一

箇月デモ二箇月デモ、三箇月デモ

早ク、次ノ議會ナドト云フコトナ

ク實施シタイ、ソレガ調停仲裁等

ノ規定ノ早ク實施シタイ趣旨デア

リマス

ソレカラモウ一ツノ點ハ今ノ公

益ノ點デアリマスガ、是モ同様デア

リマシテ、茲ニ非常ニ不安ナコ

トデモ起キマスルト、日常國民生

活ニモ影響シマスルシ、サウ云フ

コトノナイヤウニシタイト云フコ

トハ、一刻モ急ヲ要スル次第デア

リマスカラ、勿論出來ルダケ早ク

此ノ法案ハ決定シタイ、内容ニ付

キマシテモ政府トシマシテハ斯ウ

アルコトガ當然デアルト云フ確信

ヲ持チマシテ、此ノ議會ニ出シマ

シテモ、是ヨリモ非常ニ良イ法案

ヲ出スト云フ希望ハ持テマセヌ、

是ガ一番最善ナリト考ヘデ居リマ

ス

○木下委員 御答辯ヲ得マシタガ

私ハ少シ考ヘガ違ツテ居ルノデゴ

ザイマス、今此ノ勤勞大衆、又三

百萬ト言ハレル官公吏、斯ウ云フ

組合ノ人達方舉ツテ此ノ法案ヲ阻

止シヨウト必死ノ運動ヲ展開シテ

居ル、斯ウ云フ時ニ此ノ法案ヲ通

過サシタナラバ、其ノ結果ハドウ

ナリマス、御説ノ通り補償ノ打切

リヤ色々ナコトデ失業者ハ殖エマ

セウ、ダガ此ノ澤山ナ人ガ不平等

不滿ヲ持ツテ勞務ニ服スルト云フ

コトハ産業ノ面ニ於テモ、行政ノ

面ニ於テモ非常ナ影響ヲ來タシ、非常ナ不平不滿ヲ持ツテ働ク、元來非常ナ不愉快ヲ持ツテ働クト云フコトハ人間ノ不幸デアリマスガ、何百萬ト云フ人間ガ非常ナ不愉快ヲ持ツテ働ク、不愉快ヲ持ツテ働クベソレガ産業生産ノ上ニ大キナ影響ヲ來タス、私ハ恐ラク五ツヤ十ノ爭議ヨリモ其ノ影響ノ方ガ大キイダラウ、爭議トシテ現ハレテ來ナクテモ實際「ストライキ」ヲヤル、現在ニ於テモサウ云フ傾向ガアルヤウニ見ラレル、デアリマスカラ之ヲ急グヨリモモツト善イ法案ヲ労働保護法ト睨ミ合ハシテ作ル方ガ宜イノデハナイカ、其ノ方ガ政治トシテ扱フ上ニモ宜イノデハナイカ、今一日モ急グニ相違ナイデセウケレドモ、結果トシテハ惡イ結果ガ起ルト斯様ニ考ヘマスノデ延バシタラドウカ、其ノ點ヲ伺ヒマス

○河合國務大臣 色々組合方面ニ於テモ此ノ法律ニ對スル御不滿ノアルコトモ承知シテ居リマスガ、斯ウ云フコトノ爲ニ「ストライキ」ガ起キルト云フコトハ絶無トハ私ハ申上ゲマセス、勿論私ハ本當ノ労働爭議ハヤハリ生活權ノ問題デヤナイカト思ヒマスノデ、經濟方面ニ於テ根本的ノ施策ヲヤツテ、サウシテ生計ガ立ツテ行クト云フコトニ最モ重點ヲ置カナクチャナラヌコトデアルト同時ニ「ストライキ」ノ原因ノ一番「ポイント」

モヤハリドウシテモ食ツテ行ケヌト云フ問題ダト思ヒマスルノデ、物ノ考ヘ方ニ付テ多少遺憾ナガラ御質問トハ食ヒ違ツテ居ル點ガアルカト思ヒマス、是ハ各人ノ意見デアリマスカラ、ソレデ又一面ニ於テ此ノ法案ニ對シテ組合側其ノ他ニ於テ誤解シテイラツシヤル點モアルノデハナイカ、中々法律ト云フモノヲ大衆ニ理解シテ貰フノハ骨ノ折レルモノデアリマシテ、此ノ法案ナドモ能ク分ツテ戴ケバ決シテ私ハ壓迫デモナイ、去勢デモナイト信ジテ居ル次第デアリマス、サウ云フ點ニ付テハ政府トシテハ萬全ヲ盡ス積リデ居リマス

○木下委員 私人御聴キタノハ、労働爭議ガ起ルトカ起ラナイトカ云フ問題デハナクシテ、此ノ問題ヲ此ノ際非常ナ反對ヲ押切ツテ實施シタ場合ニ、此ノ爭議ヲ調整スルコトヨリモ、多數ノ人ガ不公平不滿ヲ持ツテ業務ニ服スルコトノ方ガ影響ガ多イ、産業ノ生産上ニモ非常ナ影響ヲ來スト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、時間デアリマスカラ私ハモウ少シ質問シタイノデアリマスケレドモ、此ノ次ノ委員會ニ譲リタイト思ヒマス、併シ續行シテ宜シウゴザイマスカ

案ガアツテ調整スルコトハ、是ハ誰シモ大賛成ト思ヒマスガ、モツト根本的ニ爭議ノ起ラナイ方法ヲ講ジナケレバイカヌノデヤナイカ、ソレニハドウシテモ労働者ノ要求スル所謂企業ニ參加サセナケレバイカヌ、此ノ法案デ見マス、サウ云フ風ナコトハ労働ノ關係事業者デ自主的ニヤレ、斯ウ云フ風ニナツテ居ルノデヤナイカト思ヒマス、爭議ノコトバカリヲ取上ゲテ之ヲ調整シヨウト云フ風ナ案ト思ヒマスガ、モウ少シ積極的ニ政府トシテハ突込シテ労働者ニ經營ニ參加サセル、サウ云フ手ヲ打ツ必要ガアルト思フ、企業ニ參加サセルト言ヒマスト經營ニ參加サセルハ勞働者ニ經營ニ參加サセルト云フコトハ即チ産業ノ民主化デアリマス、又資本ニ參加サセル、是モ宜イコトト思ヒマス、是ハ所謂資本ノ集結ヲ避ケテ資本ノ民主化デアリマス、聯合國司令部ガ財閥ヲ解體シタノモ此ノ趣意ニ依ツタモノダト察セラレマス、サウ云フヤウニ積極的ニ何等カノ手ヲ打ツテ指導サレタラドウカ、其ノ方ガ餘程有效デハナイカト思ヒマス、之ニ對スル厚生大臣ノ御意向ヲ御伺ヒ致シマス

○河合國務大臣 只今ツ質問ニ御答ヘ致シマスガ、爭議ノ起ラナイヤウニスルコト云フコトハ、最モ是ハ希望スルコトデアリ、又政府モ國民モ、全體其ノ線ニ於テ努力シ

ナクチャナラヌ點ト思ヒマス、ソレデ其ノ點ノ一番問題ノ中心ハ言フマデモナク經濟問題デアリマス、ソレデ今日ハ御承知ノ通りノ日本ノ狀況デ、食糧ノ不足ト「インフレ」ト云フヤウナコトデ、是ハ來ルベキ原因ガアツテ起キタ、原因ト申セバ終戰ト云フコトヲ動機ト致シマシテ斯ウ云フ風ニナツテ來テ居ルノデアリマシテ、色々原因ガアリマシテ、中々此ノ問題ハ何人ガ御考ヘニナリマシテモスパツト經濟狀態ヲ満足サシテ、何人モ不平ガナイヤウナ事態ニ急轉回ヲスルト云フコトハ困難ナ問題ダト思ヒマス、併シナガラ其ノ線ニ沿ウテ出來ルガケ努力ヲ致シ殊ニ食糧ノ見透シナドニ付テ大分明ルクナツテ參リマシタノデ、食糧問題ガ解決スレバ問題ノ七、八割ハ解決スルノデハナイカト思ヒレマスノデ、非常ニ希望ヲ持ツテ此ノ點ニ付テ努力ヲシテ居ル次第デアリマス

ソレカラモウ一ツノ面ハ、御指摘ノ通りニ産業機構全體ノ問題、其ノ問題ノ一部トシテノ労働ト經營トノ關係ノ如キ問題デアリマス、此ノ線ニ沿ウテモ段々ト資本ト經營トノ分離ト云フヤウナコトガ現實ニナツテ來ル次第デアリマス、又一面ニ於テ經營ト労働トノ調和ト云フコトモ段々都合好クナツテ參ルダラウト私共ハ考ヘマシテ、經營協議會ノ如キ其ノ點ニ於

テ一ツノ手段ヲ與ヘルモノデアルト云フ風ニ考ヘテ居リマス、唯此ノ法律ハヤハリ勞働ト云ヒマス、經營ト労働トガ別ノモノデアルト云フ前提ノ下ニ總テノ法律ガ出來テ居リマシテ、ソレニ對スル調整ヲ目標トシタモノデアリマスカラ、此ノ法律ニ産業ノ組織機構ノ將來ノコトニ對シテ色々批評ヲ與ヘルト云フコトハドウカト思ヒマス、御指摘ノ如ク色々問題ガアル、例ヘバ今御話シノヤウナ労働者ガ段々經營ニ參加スルト云フ形、或ハ又「プロフィット、シャーリング」ノヤウナ形、或ハ協同組合ノ如キ形、或ハ中小工業ナドニ對シテ特別ノ方法ヲ執ルト云フヤウナ色々ノ問題ガアリマシテ、勞資ノ圓滿ナル調和ニ依ツテ仕事ヲヤツテ行クト云フコトハ勿論進メナケレバナラヌコトデアルガ、此ノ法律ニハ性質上取上グベキモノデナイ、ソレハ又他ノ法律ナリ他ノ政策ヲ以テソレヲヤルベキモノデアルト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○穗積委員長 穗積七郎君 致シマシテ、根本的ニ二ツノ缺陷ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ感ジタノデアリマス、一ツハ今後ノ我が國ノ經濟復興ノ方向ヲ考ヘマシテ労働爭議ガ成ベク少イコトヲ、或ハ起キタ爭議ヲ抑壓スルコトヲ必要トシテ主張シテ居ルノデアリマ

スガ、一面労働者ノ生産ニ對スル發言權、或ハ生活ニ對スル保障ト云フモノガ確立サレズシテ、労働爭議ノミ一方のニ抑壓サレル危険ガアルト云フ點ニ於テ、此ノ法案ノ大キナ一ツノ缺陷ガアルト云フ風ニ思フノデアリマス、モウ一ツハ第五章ニ於キマスル爭議ノ制限或ハ禁止ノ條項ニ於キマシテ、特ニ爭議行為禁止制限ノ嚴ニ過ギルト云フ二ツノ缺陷デゴザイマス、其ノ點ニ付キマシテ前ノ質問者ガ提案サレマシタ第一ノ問題ニ關聯致シマスガ、私ハ大體此ノ二ツノ點ニ限ツテ御質問致シタイト存ジマス、尙ホ今後ノ我が國ニ於キマスル労働政策ハ今後ノ經濟安定政策ト密接ナ關係ガアリマシ、ノミナラズ、之ニ就任サレマシタ前國務大臣ハ就任早々労働運動ニ對シテ實ニ重大ナル發言ヲシテ居ラレマスノデ、私ハ特ニ政府ノ懷イテ居リマスル生産政策或ハ労働政策ニ關シマシテハ、前國務大臣ノ御出席ヲモ併セテ御願ヒ致シテ置イタノデアリマスガ、連絡ガ付カナカツタカ御不都合ノ爲ニ出席シテ戴イテ居リマセヌノデ、是ハ次ノ機會ニ是非御願ヒシタイト存ジテ居リマスガ、河合厚生大臣ニ關スル限り御質問致シタイト存ジマス、前ノ本會議ニ於キマスル質問ニ於テ、私ハ政府當局ガ御考ヘニナツテ居ラレマスル我が國ノ生産政策ニ對シマシテ、其ノ基本的ナ

考ヘハ未ダニ舊イ經濟思想ノ上ニ據ツテ居ルト云フ失望ヲ感ジタノデアリマス、ソレガ實ハ私ヲシテ今申シマシタ此ノ法案ガ缺陷ヲ持ツテ居ルト益々危惧セシメマシタ理由デアルト思フノデアリマス、今後我が國ニ於キマスル經濟或ハ國民生活ノ確保ニ付キマシテハ、言フマデモナク一ツノ爭議モナイ生産復興ト云フコトガ、而モ消極的ニ爭議ガナイデケデナシニ、總テノ労働者ノ持つテ居ル能力ト意欲ト云フモノノ生産ニ具現スルヤウナ方法ガ考ヘラレルコトハ當然デゴザイマスガ、今日ノ狀況ヲ以テ致シマスナラバ、悲シイカナ敗戦後ノ我が國ノサウ云フ劣惡ナル經濟條件ノ中ニ於キマシテ其ノ生産政策ヲ遂行シテ行キマス爲ニハ先ヅ茲ニ經濟ニ於ケル民主的ナ改革ガナケレバナラヌノデアリマスガ、私ガ此ノ今度ノ生産政策ナリ労働政策ニ對シマシテ最モ危惧ヲ抱キマスコトハ、日本經濟ノ基礎條件ト云フモノノ打拂ハレタニ拘ラズ、未ダニ特ニ金融資本ノ力ト官僚ノ力ト云フモノノガ儼トシテ殘ツテ居ル、一方ニ労働組合ハ再び團結ノ自由ガ與ヘラレマシテ急速ニ結果サレ、今日四千ノ組合、三百萬ノ組織労働者ト云フコトガ言ハレテ居リマスガ、其ノ組織ノ實體ニ於キマシテハ或ハ思想ニ於キマシテハ異ルノデアリマスガ、組織ノ實力其ノモノノ實體中シマ

スト、是ハ會テノ産業報國會ガ全國的ニ組織サレマシテ、一千萬ヲ超エル労働者ガ組織サレタト言ツタト同ジデ、謂ハハ「ペーパー・オルガニゼーション」ト私ハ思ヒマスガ、サウ云フ労働運動ガマダ正常ナル發達ヲシテ居ラヌ、サウシテ一方ニ於テ金融資本ト官僚ノ力ノミガ強クアル場合ニ於キマシテ、此ノ既存ノ労働政策ノ基礎トナリマス生産方式ニ於テ何等改革スル所ナクシテ、其ノ儘社會秩序ノ維持ト云フコトニ藉口致シマシテ、此ノ労働爭議取締ノ法律ガ通ルコトニナリマス、成程河合厚生大臣或ハ其ノ他ノ政府委員ノ方方ハ、主觀トシテハサウ云フ反動的ナモノニナラヌヤウニ努力スルト云フコトヲ誓フト云フコトデアリマスガ、凡ソ法律ト云フモノハ此ノ法律ヲ施行スルモノハ河合厚生大臣ダケデナシニ、全國ノ資本家ト全國ノ労働者トノ關係ニ於テ是ガ運轉サレルノデアリマス、隨テ私ハ労働爭議ノ抑壓或ハ爭議ノ絶無ト云フコトヲ期シテ取締ヲヤル以上ハ、一方ニ於テ労働者ノ生産ニ對シマスル主體的ナル發言權ト云フモノト、ソレカラモウ一ツハ労働者ノ不安ニ驅ラレテ居リマスル生活保障ノ確立ト、此ノ二ツガ前提トナツテ初メテ、労働爭議ニ對スル禁止ナリ或ハ取締ト云フコトガ妥當性ヲ持つト思フノデアリマス、其ノ意味ニ於キマシテ

私ハ去ル十七日ニ中央勞働委員會ハ經營協議會ノ制度及ビ指針ニ對シマシテ發表ニナツテ居ルノデアリマスガ、是ハ必ズシモ現政府ガ執ツテ居リマス最終的ナ内容デハナイト思ヒマスガ、ソコデ私ハ此ノ中デ一番ニ御尋ネ致シタイトハ此ノ經營協議會ノ案ニ對シマスル政府ノ御所信或ハ態度ニ付テモウ一ツ御尋ネ致シタイトコト、此ノ中ニ於テモ私ガ本會議ニ於テ星島商工大臣カラ御答辯戴キマシタ經營協議會ノ制度ヨリハ、此ノ案ノ方ガ稍々進歩的デアルト思ヒマスガ、其ノ進歩的デアルト思ヒハレル此ノ協議會ノ案ニ於テスラ、尙且經營權ニ對スル一線ヲ明確ニ劃サウトシタリ、或ハ介業體内ニ於キマスル人事權ニ對スル一般労働者ノ發言權ニ對シマシテハ之ヲ警戒スルト云フヤウナ限界ヲ設ケテ居ルノデアリマスガ、私ハ此ノ際思ヒマ一步進メラレマシテ、今後ノ我國ノ生産復興政策ト云フモノハ労働者ノ主體的ナル起テ上リト組織ト云フモノ以外ニナイ、ソレハ提案理由ノ中デ、説明サレタ如ク氣分ノ上ニ於ケル内括的ナル労働者ノ資格デナシニ、生産ノ構想ノ中ニ於テ労働者ノ主體的ナ發言權ト云フモノヲ認メルコトナクシテ、私ハ此ノ法案ガ労働者ノ彈壓法ニナラヌトハ決シテ保證シ難イト思フノデアリマスノデ、其ノ二ツノ點ニ付テ先ヅ御尋ネ致シタイト思

フノデアリマス、第一ハ經營協議會ノ發表サレマシタ案ニ對スル政府ノ態度、詰リ其ノ内容ニ對スル政府ノ御考ヘデアリマスガ、第二ハ労働者ノ生産即チ主體的ニ申シマスナラバ、經營權、人事權ニ對スル或ル程度ノ發言權ノ確立デアル、其ノ技術的ナ問題ハ後ニ論ズルト致シマシテ、其ノ方向ニ一歩前進スルコトガ出來ナイカドウカト云フコトヲ先ヅ第一番ニ御尋ネ致シタイト存ジマス

○河合國務大臣 只今ノ穂積君ノ御質問ニ御答ヘ致シマスガ經營協議會ノ建前ニ付キマシテハ、大體ノ趣旨ニ於テ勞務法制審議會ノ答申ト同ジ考ヘテ持つテ居リマス、唯經營權ト労働權ノ關係ト云フコトニ付キマシテハ、私ハヤハリ一線ヲ劃シテ行キマス、ソレハ今ノ憲法草案ノ命ズル所デス、憲法草案ヲアノ線ニ置ク以上ハ是ハ已ムヲ得ヌ、ソレ以上ニ對スル個人的ノ考ヘハテンデニ持テ得ル、ソレカラ又將來ニハドウシテ行ケバ宜イカト云フコトニ對シテハ多分ニソコニ色々ナ理想モ盡キ得ルト思ヒマス、併シナガラ兎モ角モ此ノ日本ガ聯合國ノ管理ヲ受ケマシテ斯ウ云フ風ニ「一ツ」デモクラシー」ノ線ニ沿ウテ進ムト云フコトノ限度ニ於キマシテハ、是ハ其ノ線ニ進ムノダト云フコトニ全部ノ思想ガ統一サレテ居リマス、ソレデ其ノ問題ノ下ニ萬事ヲ決定シ

テ行ク譯デアリマスカラ、隨テ人事權ノ如キモ、是ハ經營權ノ人事權ハ最モ重大ナル主體ヲ爲シテ居ルモノデアリマス、ダカラソレハ經營協議會ノ議決ノ事項ニ入レルト云フコトハ妥當デナイト云フ解釋ニナツテ居リマス、經理權モ私ハサウ思ツテ居リマス、サウ云フ風ニ現在ノ狀態ニ於テ、ドウ云フ政策ノ下ニ、憲法ヲ中心ニシマシテドウ云フ根本思想ノ下ニヤツテ行クカト云フコトノ前提ノ下ニ於テノコトトシテ左様御承知願ヒマス、デ一旦之ヲ混ゼマスネドウモ今ノ基本觀念トハ違ツタモノガ出來テ來ルト云フ風ニ私ハ考ヘテ居リマス、併シナガラオ互ヒニ是ハ

協和シ協調シテ行カナケレバナラヌコトデアルカラ勿論此ノ人事トカ經營ノヤウナ問題ニ付テモ出來ルダケ労働者側ノ意向ヲ徵シテ、或ハ其ノ空氣ヲ見デヤツテ行クト云フコトハ、是ハ言フマデモナク結構ナコトデアルト云フ風ニ私ハ經營協議會モ考ヘテ居リマス

○**總務委員** モウ一言大臣ニ御質問致シマス、去ル十七日ニ中央労働委員會ガ發表致シマシタ經營協議會ノ性格ニ對シテ、政府ハ大體此ノ内容ナリ方針ニ從ツテヤツテ行カレルカドウカト云フコトヲ念ノ爲メ御尋ネシテ置キマス

○**河合國務大臣** 大體ニ於テ其ノ線ニ沿ウテヤツテ行キマス、唯アレハコチラノ案デナク向フノ答申

デアリマスカラ、政府ニ於テソレヲ決定シマス時ニドウ云フ表現方法ヲ執ルカト云フコトハ別デアリマスルガ、大體ノ思想トシテアノ線ニ沿ヒタイト考ヘテ居リマス

○**總務委員** 御尋ネ致シマスガ、箇々ノ企業體ノ中ニ於キマシテ、經營協議會ヲ通ジ、或ハ團體協約ヲ通ジ乃至ハ其ノ他ノ申合セニ依リマシテ、事實職場ノ労働者乃至ハ中堅ノ技術者、經營者ノ所謂職員ノ層ガ企業ノ經營權ト稱セラレル部分、或ハ人事權ニマデ參加シテ居ル事實ガアリマスガ、是ハ厚生大臣ノ御解釋ニ依リマスト違法デゴザイマセウカ、如何デゴザイマスカ

○**河合國務大臣** 現實ノ問題ニ付キマシテハ、經營者側ト組合側トガ任意ノ協議ノ上ニヤツテ居ルコトニ付キマシテハ、勿論違法デモ何デモナイト思ツテ居リマス

○**總務委員** 先程ノ厚生大臣ノ御答辯ハ、憲法ニ依ル原則ニ依ツテト云フコトデ、憲法ノ解釋カラ經營權ニ參加スルコトガ違法デアル或ハ日本ノ民主主義建設ノ根本構造ニ反スルト云フ御答辯デアリマシタガ、其ノ御答辯ト今ノ御答辯トハ聊カ食違ガアリマスガ、ドウ云フ意味デゴザイマスガ、議論ヲ進メル上ニ誤解ノナイ爲ニ事前ニ同ツテ置キタイト思ヒマス

○**河合國務大臣** 大體協約ト云フコトハ、多クノ場合ニ法律ニ先行シテ宜イト思ヒマス、オ互ヒニ協議ノ上デアリマスコトハチツトモ構ハヌコトデアリマス、ダカラ少クモ憲法ノ思想ト、オ互ヒノ協議ノ上デアツテ行クコト、即チ協約ノ上デアツテ行クコトトハ別ニ矛盾ハセヌト思ヒマス

○**總務委員** サウ云フ形デ生産ガ續行サレ或ハ業務ガ續行サレテ居リマス具體的事實、ソレノ生産能率等ニ付キマシテドウ云フ風ニ御考ヘニナツテ居ラレルカ知リマセヌガ、私ノ少イ例ニ於ケル見聞カラ致シマス、大體小サイ企業體デハ効ヲ奏シツ、アル、而モ今後ノ補償打切り並ニ企業整備等ニ於ケル經濟崩壊ノ事態ヲ考ヘ合セ、最近ニ於ケル英國ノ労働運動或ハ生産政策ノ方向ト云フモノヲ考ヘ合セテ見ルナラバ、此ノ方向コソガ私ハ爭議ヲヨリ少クシ、生産性ヲ高め、同時ニ民主化ノ基礎ヲ作ツテ行ク一石三鳥ノ急所デアルト思フノデアリマスガ、若シサウ云フコトヲ政府ガ虚心坦懷ニ認識サレルナラバ、企業ニ於ケル經營權絕對主義ト云フヤウナ妄想ニ因ハル、コトナシニ、現實其ノ方向ヘ指導サレル御用意ガアルカドウカ其ノコトヲ御尋ネ致シタイノデアリマス、言ヒ換ヘマスナラバ、經營或ハ人事權ニ労働者ガ參加スルト云フ法律ヲ作ル、條文ヲ何處カニ入レルト云フコトハ考ヘナイト云フ御趣旨デアリマスガ、事態ガ

最モ巧ク進ミ、而モ此ノ法案ガ第一章ニ謳ツテ居ル大眼目ニ副フモノデアルトスルナラバ、今後ノ行政處分ニ於テ其ノ方向ヲ誘發シ或ハ指導サレル御用意ガアルカドウカ、ソレガ起キタ場合ニ於キマシテモ政府當局ハ成ベク、ソレヲ抑壓シテ、ソレトハ違ツタ經營權絕對主義ノ方向ニ、經濟秩序維持ニ名ヲ藉リテ指導サレル御積リデアリカ、其ノ心中僞ラザル肚ヲ御聽キ致シタイノデアリマス

○**河合國務大臣** 私ノ説明ガ足ラナカッタノデ總務委員ノ御質問ガ出タルコトト思ヒマスガ、經營權ト労働權トノ間ニ一線ヲ劃スルト云フノハ、是ハ經營者ガ厭ヤナ場合ニ強制的ニ入ツテ貰フコトヲ拒否スルト云フ意味デス、承諾ノ上デアリマスコトハチツトモ差支ヘアリマセヌ、ソレダカラ私ガ一線ヲ劃スルト云フノハ經營權ノ中ニ労働者ガ入ツテハナラヌト云フコトデナク、經營者ガ經營權ヲ持ツテ居ル、ソレヲ侵犯シテハナラヌト云フコトデス、其ノ點ヲハツキリ御諒承願ヘレバ私ノ申上ゲルコトガ御諒承願ヘルト思ヒマス、ソコデソレデハ經營權ノ中ニ労働者ガ參加シテ居ル事態ハドウカト云フ御質問デアリマスガ、之ニハ御承知ノ通りニ只今マデノ急激ナル日本ノ變化ト云フモノヲヤハリ前提トシテ考ヘテ行カナケレバナラヌ、只今ノ經營權ト労働權トガ相當混

ツテ居ル事態ノアルコトハ私モ認メマス、ソレハ本當ニ經營者ガ拒否シナイデ入ツタモノデアルカ、或ハ拒否シタカウツタノダケレドモ、已ムヲ得ズ入ツタモノデアルカト云フヤウナ問題デ、一概ニ言フコトハ出來ヌト思ヒマス、サウシテ此ノ能率ハ舉ツテ居ルモノモアリ、舉ラヌモノモアルト思ヒマス、是モ一概ニ論ズル譯ニ行カナイ、ソコデ政府トシテ、ソレヂヤドウ云フ方針ヲ執ルカ、法律デ労働者ハ經營權ニ參加スルコトガ當然出來ルノダト云フヤウナ規定ヲスル考ヘハ持チマセヌ、事實問題トシテ是ガ當事者ノ合議デ圓滿ニ行クナラバソレハ結構デス、併シソレハ箇々ノ問題ニ即シナクチヤナラヌ問題デ、概念的ニ申スト是ハ誤解ヲ招ク問題デアリマス、自主的ニ出來ルダケ解決シテ行キタイ、サウ云フ方針デアリマス

○**總務委員** サウ云フ御趣旨ナラバ事態ガ最モ巧ク行クナラバ、而モ事業主ト従業員トノ合意ノ上デアルナラバ、經營權ト稱セラレ、モノ、或ハ人事權ニマデ互ツテ參加スルコトハ違法デモナケレバ、又ソレヲ容認シ或ハ指導スルニ客カデナイト云フ御趣旨デアリマス

カ、サウデアルト致シマスナラバ、此ノ發表サレマス經營協議會ナリモノハ、詰リ法ノ執行力ヲ持ツテ居ラヌモノデアリマシテ、ホン

ノ一ツ「サンブル」デアリ參考

第三七

案デアルト私ハ思ヒマス、ケレドモ併シナガラ今日此ノコトガ中央勞働委員會ノ案トシテ發表サレ、更ニソレガ政府ニ於テ取上ゲラルルコトニナリマス、法律上ノ嚴密ナ執行力ハアリマセヌガ、此ノ方針ト云フモノガ具體的ナ經營協議會今後ノ發展ニ大イナル影響ヲ持ツト思フ、御聞及ビト思ヒマスガ、私共ノ仄聞致ス所デハ經營協議會ナルモノガ發展シ、或ハ勞働爭議ノ一ツノ手段トシテ生産管理、是ハ思想的ニハ同ジモノデアリマスガ、言換ヘルナラバ勞働者ガ唯賃金勞働者ノ位置ニ甘ンジテ、生産ノ一ツノ手段トシテ、客體トシテ甘ンズルノデナシニ、生産ニ對スル發言者デアリ、擔當者デアリ、責任者デアルト云フ資格ニ於テ出テ來タモノガ爭議手段トシテノ生産管理デアリ、或ハ勞働協約ニ於ケル經營協議會ノ自主的ナ内容ヲ持ツタモノデアルト思フノデアリマスガ、サウ云フ雰圍氣ノ中ニ於キマシテ本當ニ政治ヤ言葉ヤ言論タケデナク、經濟生活ノ實體ニマデ民主主義改革ガ漸進スルト云フ氣風ニ對シテ、財界方面ニ於キマシテハ實ハ經營協議會ニマデ此ノモノガ發展スルコトヲ恐怖シ或ハ或ル一部ノ者ハ諦メテ居ツタノデアリマスガ、最近其ノ後ニ於ケル一部ノ特ニ共產黨系ト稱セラレテ居リマスル勞働組合ガ、其ノ小兒病的ナ、觀念的ナ勞働爭議

ノヤリ方ノ失敗ニ依リマシテ、其ノ戰術ノ上ニ於ケル失敗ト云フモノヲ逆ニ理由トシテ取ツテ、ソコデ社會秩序乃至ハ經濟秩序ノ維持ニハ資本家ノ擁護デハナシニ、國家全體ノ生産性ヲ高メル爲ダト云フコトニ建前、目標ヲ立デマシテ、續イテ斯ウ云フヤウナ秩序維持ノ法案ナリ聲明ガ出テ來ルニ至リマシテ、ソレ以來財界ニ於キマス一般的ナ風潮ト云フモノニ付テハ、此ノ經營協議會ヲ日スルニ、會デノ戰時中ノ産業報國會ノ懇談會ト同ジ位置ニ押下ゲテ、或ハ輕蔑致シマシテ、其ノ實效ヲ甚ダシク歪メツ、アル實情デアルト私ハ思フノデアリマス、斯ウ云フ寡團氣デアリ、ノミナラズ次ニ企業整備ナリ、補償切後ニ於キマスル我が國ノ、資源ヲ持タズ、市場ヲ持タザル日本經濟建設ニ於キマシテハ眞先ニ安定本部長官ガ第一聲ノ聲明トシテ取上ゲマシタ如ク、爭議ノ休戦——或ハ勞働組合運動ニ於キマシテモ、固ヨリ爭議ヲヤツテ賃金ヲ要求スル、或ハ其ノ場合ニ於キマシテハ、小サイ中小企業ナドハ經營權ヲスラ抛棄シテシマフト云フコトデ、廻リ廻ツテ、我々ニハ何ガ來ルカト云フト、何モ與ヘラレナイト云フ、一ツノ勞働運動ノ壁ニブツカツテ來テ居ルト思フノデアリマス、ソコデ勞働運動ノ少クトモ地ニ着イテ指導者連デアルナラバ、恐ラク次ニハ、或

ル意味ニ於キマスル質上ゲ鬭爭デハナシニ、生活改善運動デハナシニ、ヨリ強クソレヲモ主張シナガラ、ヨリ強キ増産運動ノ方向ニ、勞働運動ト云フモノガ轉換スルデアラウト豫期サレルノデアリマス、其ノ空氣ノ中デ、此ノ勞働者ノ權利ヲ一ツノ法律ノ上デ認メルコトガ出來ナイト云フ御考ヘデアリマスガ、私ハ希望ト致シマシテハ、勞働ノ基本法ト云フモノヲ、勞働憲章ト云フモノヲ生活保護法ト共ニ重要ニ考ヘラレテ、今後之ヲ是非取上ゲテ裁キタイ、ソコデ更ニ問題ヲ整理シテ御尋ね致シタイノハ生産ノ中ニ於ケル勞働ノ位置ヲ明確ニ規定スル、即チ厚生大臣ガ本法案ヲ提案サレマシタ最初ノ説明ニ於テ、内發的ナ勞働者ノ自覺的起上リト云フモノヲ、生産ノ具體的ナ「ボーズ」ノ中ニ、法律ノ制度ノ中ニ認メルト云フヤウナ意味ニ於テ、ソレヲ盛ツタヤウナ勞働ノ基本法、勞働憲章ト云ウモノヲ立法サレル用意ガアルカ、或ハ御意思ガアルカ、其ノ意思ト狀況ヲ第一番ニ御尋ね致シタイ

テ行ク意思ガナイカドウカト云フコトヲ、第二ニ御尋ね致シタイ 第三ニハ、先程私ガ申シマシタヤウニ、現在ソレガ法律ノ上ニ於テ認メラレナクテモ、合意ト契約ノ上ニ經營ノ參加、人事權ノ參加ト云フモノガアルナラバ、ソレハ認メテモ差支ヘナイト云フコトデアリマスガ、サウ云フ御方針デアラナラバ、此ノ經營協議會ノ基準ト云フモノハ、サウシテ而モ現在ニ於ケル經營協議會ノ基準ヲ財界或ハ勞働者ニ示スト云フコトハ、其ノ方向ヲ歪曲シ、或ハ彈壓スル一ツノ基準トナルト私ハ思フノデアリマスガ故ニ、是ハ改正スルナリ即チ今河合厚生大臣ガ御答ヘニナツタ通りノ言葉ヲ此ノ中ニ入レテ裁キタイ、即チ法律ノ中ニ於テ勞働者ノ權利トシテ、經營ノ參加、人事權ヘノ參加ト云フコトハ認メラレテ居ナイケレドモ、合議ノ上ナラバ、是ハ更ニ差支ヘナイト云フヤウニ、經營協議會ノ基準ヲ改正スルカ、ソレヲ改正スルコトガ出來ナイナラバ、此ノ經營協議會ノ指針ヲ發表シナラヌ方ガ、却テ正シイ勞働運動ノ發展或ハ生産政策建設ノ爲ニ寧ロ私ハナルト思フ、斯ウ云フ宜イ加減ナモノヲ御示シニナルコトハ、サウシテ之ヲ突カレレバソレハ法律デアナイ一ツノ「サムブル」デアルト云フ口實ヲ常ニ用意シツ、而シテ實際ニハ是ガ一ツノ基準ニナルト云

フモノヲ、「サムブル」ナリトシテ出スコトハ止メテ裁キタイ、私ハソレヲ改正スルカ、取止メルカドウカ、以上三點ニ付テ御答ヘテ願ヒタイト思ヒマス

○河合國務大臣 色々爭議ニ付テ御意見モアリマシタガ、「アメリカ」アタリデハ、爭議ハ殆ンド賃金問題ニ限定サレテ居ルヤウナ狀況デアリマシテ、日本ノ爭議ハ「アメリカ」側ト少シ違ツタ形デ來テ居ル、ヤハリ日本獨特ノ、何ト言ヒマスカ、人情味ヲ持ツト云フカ、或ハ國ガ小サイ爲ニセ、コマシイト言ヒマセウカ、サウ云フモノガ爭議員ノ中ニ色々混ツテ來テ居ルヤウナ點モアリマスノデ、ヤハリ大體ニ於テ勞働權ト經營權ヲ截然ト分ケテ行ク以上ハ、其ノ先端的ノコトバ勞働條件デアリ、殊ニ賃金デアル、ソレデ「アメリカ」アタリノ爭議ハ賃金爭議デアツテ、ソレデ「デモクラシー」ガ立派ニ行ハレテ行クト云フ點モ、ヤハリ御考ヘ置キ願ツテ、問題ヲ綜合的ニ考ヘナクチャナラヌノデハナイカ、私ノ言フコトハ、言フコトハ何ダカ非常ニ漠然トシテ居ル、漠然トシテ居ルコトハ私モ承知ノ上デ言ツテ居ルノデス、併シナガラ總積サンノ言フコトヲ反駁スルト云フノデハナイケレドモ、サウ云フ點モ總積君ノ御意見ノ中ニ御考ヘ置キ願ヒタイ、ソレデ問題ハ今ノ御話ニ依リマス、經

營權ト云フモノノ中ニ、法律ノ當然ノ權利トシテ、ドウシテモ勞働者ノ權利ヲ介入サセテ行ケト云フコトヲ、相手方が不承知デモ、サウ云フヤウニ法律デシタ方が宜イデハナイカト云フ御希望の御話ノヤウニモ拜セラレルノデアリマスルガ、サウ云フ意味ニ於ケル勞働意章の考ヘハ、只今ハ持チマセヌ、ソレヨリモ憲法草案ノ下ニ於ケル勞働組合法ヲ持チ、其ノ右翼、左翼ニ勞働調整法ト、勞働保護法ト申シマスカ、勞働基準法ト申シマスカ、サウ云フモノヲ持ツテ行クト云フ建前デ居リマスカラ別ニ勞働意章のモノハ必要ハナイト考ヘマス

其ノ次ノ御質問ノ、生産ニ對スル色々ノ勞働條件——生産ニ對スルト云フ言葉ハコンガラガリマスカラ、單ニ勞働條件ト申シマスガ、勞働條件ハ勞働者ノ權利デアルト云フ御主張デゴザイマスルケレドモ、勿論サウ云フ趣旨ヲ以テ勞働保護法ヲ作ルニシマシテモ、恩惠的ナ、資本家ガ之ヲ與ヘルノダト云フ考ヘ方ハ一ツモ持ツテ居リマセヌ、勞働權カラ「スタート」シタ正當ノ權利トシテ、ハ勞働者ガ持つベキモノダト云フ趣旨ニ於テ考ヘテ居リマス

ソレカラ第三ノ點ハ經營協議會ノ問題ニ付テ御尋ネデアリマシタガ是ハ先程申シマシタ通りニ、經營協議會ト云フモノハ、契約上

ノコトヲ別ニドウ云フ風ニ作ラウト是ハオ五ノ契約ノ自由デアリマスカラ、其ノ點ニ付テハ支障ハナイ、ドウ云フヤウニ作ツテモ構ハヌコトデアリマスガ、唯今問題ニナツテ居リマスノハ、勞働爭議トシテ經營、協議會ガ要求サレテ居ル、サウシテ經營協議會ヲ作ツテ此處マデ經營者ニ讓ツテ貰ハナクチャナラヌ、此處マデ斯ウダト云フケジメヲ作ルコトガ、現下ノ要求サレタ問題ニナツテ居リマス、サウ云フ意味ニ於テノ經營協議會ト云フモノハ、斯ウ云フヤウニスルノモノ一ツノ考ヘ方デヤナイカト云フコトヲ示ス意味デアリマスカラ、目下ノ情勢ニ對スル爭議行為

ノ一ツノ要求事項ト云フカ、其ノ點ガ問題ノ中心ニナツテ居リマスルガ故ニ、サウ云フ意味ノ經營協議會ノ「サムブル」ヲ作ツテ置クト云フヤウニ御覽下サレバ、問題ハ明カト思ヒマス、併シナガラ自由契約ニ依ツテ何ヲスルカト云フコトハ、是ハ勿論ノ自由ナコトデアリマシテ、此ノ「サムブル」デ拘束シヨウナント云フ考ヘハ一ツモ持タナイ次第デアリマス、ソコデ色々之ニ付テ法律ヲ以テ細カク規定シテハドウカト云フヤウナ話モアリマシタケレドモ、却テ今ノ自由無礙ノ發達ト云フコトモアリマスカラ、其ノ時ノ情勢ニ應ジタ風ニナツテ行クノガ宜カラウト云フノデ、特ニ法律ヲ避ケタト云フ

點モアルノデリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○稟議委員 一寸聴キ漏ラシマシタガ、勞働根本法ハ制定ノ意思ガナイト云フ御答ヘデゴザイマシタデセウカ

○河合國務大臣 勞働意章ト云フモノハ別ニ作ル考ヘハアリマセヌト云フコトデス、併シナガラ勞働保護法ト申シマスカ、勞働基準法ト申シマスカ、サウ云フモノハ勿論此ノ次ノ議會ニ出シテ行ク積リデアリマス、是ハ勞働條件ニ關スルモノデアリマス

○稟議委員 實ハ第一ノ問題ニ付テ明カニシテ置キタイト思ヒマスガ、河合厚生大臣ハ、憲法草案ニ總テノ基準トシテ御執リニナツテ居ラレルヤウデアリマスガ、實ハ現在出テ居リマスル憲法ハ飽クマデ草案デアリマシテ、マダ是ハ確定シテ居ラスノデアリマス、而モ第三章ノ國民ノ權利義務ノ中ニ於テハ、私個人モ其ノ一人トシテ主張致シマシタガ、次ノ日本經濟ノ建設或ハ生活建設ノ場合ニ於キマシテハ、勤勞ガ中心ニナラナケレバナラナイ、資本デハナシニ、勤勞並ニ勤勞者ガ中心デアルト云フ日本ノ建設行動ヲ考ヘテ、ソコデ勤勞ノ義務制ヲ主張シ、或ハ法律ノ定ムル所ニ從フ生産ヘノ勤勞者ノ参加ト云フコトヲ主張致シテ居ルノデアリマシテ、其ノ意味ニ於キマシテハ、現在アル法案ヲ楯ニ

取ラレテ、ソコデ此ノ勞働根本法ニ對スル問題モ其ノ線カラ理由ヲ引出サレルコトハ、聊カ理論的ニ薄弱デハナイカト云フ風ニ思フノデアリマス、ソコデ私ハ名前ハ勞働根本法デアラウト、或ハ勞働保護法デアラウト結構デアリマス

ガ——實ハ名前自身モ餘リ結構デハナイ、保護法ナント云フ、與ヘラレタル勞働生活ト云フコトデナシニ、勞働者自身ガ主體的ニ生産或ハ勞働生活ヲ確立スルト云フコトガ必要デ、保護法ト云フ言葉ハ不賛成デアリマスガ、其ノ言葉ハ一歩譲リマシテ、其ノ法案ノ内容トシテ、生産ト勞働條件ダケデナシニ、生産ノ中ニ勞働ノ占ムル位置ニ付テ其ノ内容ヲ御盛リニナル用意ガアルノカナイノカ、ソレヲ御尋ネ致シマス、是ガ第一ノ點デアリマス

第二ハ經營協議會ノ問題デアリマスガ、之ニ對シマシテハ今仰セラレタ通り、經營權ト勞働權ト一應細分シテ御考ヘニナツテ、ソシテ經營協議會ノ一歩前進シタ形ヲ勞働者ガ要求シテ、ソレガ勞働爭議ノ一ツノ要求ニナツテ居ルト云フコトデアリマスガ、是ハ勞働者ト資本家、即チ經營權ト勞働權ト云フモノガ對立致シマシテ、サウシテ勞働權ノ構成ニ依ツテ經營權ノ領分ヲ侵略スルト云フ、サウ云フ對立感ノ中カラ考ヘテ居ラレルナラバ、絕對ニ私ハ打開スル途ハ

發見シ得ナイと思フノデアリマス終戰直後ノ事實デゴザイマスガ、勞働組合ヲ結成シナケレバナラヌト云フノデ、常ニ言辭ノ上デハ左翼のナ言辭ヲ弄スルコトヲ好マレル一部ノ勞働組合ノ指導者ガ、勞働組合結成ノ準備會ニ於ケル最初ノ「スローガン」ト致シマシテ、賃金値上要求ト、並ニ解雇絕對反對ノ「スローガン」ヲ以テ呼び掛ケラレタノデアリマスルガ、皮肉ニモ同ジ時期ニ、敗戦ト共ニ解雇致シマシタ重工業ノ我々ノ關係致シテ居リマス勞働組合ニ於キマシテハ、ソレハ他カラ指導サレタノデハナシニ、其ノ職場ノ大衆ノ自發的ナ要求ト致シマシテ、其ノ職場大會ノ決議ハ何デアツカト云フナラバ、勞働賃金ノ値上或ハ解雇反對ト云フコト以前ニ、第一番

ニ掲ゲマシタ要求ハ、現物賠償トシテ取ラレテ居ル此ノ軍需工場ノ生産設備ト云フモノガ、「アメリカ」ノ所有ニナリ、支那ノ所有ニナルコトガアツテモ、願クバ此ノ生産ノ運行ト云フモノハ、此ノ日本ノ國中デ、此ノ工場ノ中デヤツテ貫ヒタイト云フコトヲ第一ノ要求ト致シマシテ、即チ其ノ場合ニ於ケル勞働者ノ自發的ナ內在的ナ要求ト云フモノハ、生産ニ對スル事業主或ハ資本家——ハ、階級的ナ立場デナシニ、ヨリ 步乘リ越エタ主體的ナ立場ニ立ツテ

ノ生産ヲ護ラナケレバナラナイト

云フコトデ、現物賠償トシテ取上
ガラレト云フコトガ豫想サレテ
居リマス其ノ生産設備ニ付テ、此
ノ國、此ノ工場ニ於テ其ノ生産ヲ
續行シテ賈フト云フ要求ヲ出シテ
ソレヲ直チニG・H・Qニ數願書ト
シテ出シテ居ル事實ガアルノデア
リマス、此ノ觀點ニ立テテ御覽
ニナルナラバ、唯勞働者ガ今日勞
働爭議ノ要求ノ一ツノ條項トシテ
經營協議會ノ設置ト云フコトハ、
今申シマシタ對立のナ意味ニ於テ
勞働權ノ經營權ヘノ侵害、或ハ勞
働ノ單純ナル資本ヘノ攻勢デアル
ト云フヤウナ考ヘ方デ、若シ此ノ
最近ノ勞働者ノ要求ト云フモノヲ
眺メラレテ、ソレヲ一ツノ今マデ
ノ經濟秩序ヲ破壊スル勞働攻勢デ
アルト考ヘ、ソレニ一ツノ基準ヲ
與ヘル爲メ、是正スル爲ニ此ノ經
營協議會ノ案ナルモノガ提出サレ
テ居ル理由デアルト云フナラバ、
私ハ先般來幾多ノ質問者ニ依ツテ
提案サレタ如ク、勞働者ノ內在的
ノ生産ヘノ意欲、乃至ハ我々ガ起
チ上ラナケレバ日本ノ生産ハ復興
出來ナイト云フ自覺ニ依ツテノミ
日本ノ生産復興ガ成リ上ガルト云
ツテ謳ツテ居ラレマス此ノ法律案
提案ノ根本ノ動機ト、結果ニ於テ
矛盾スルコトニナルト私ハ思ヒマ
スノデ、經營協議會ノ問題ニ付キ
マシテハ、先程申シマシタヤウニ
斯ウ云フヤウナモノヲ御作リニナ
ラナイデ、經營協議會ハ法律ニ依

ツテ執行力ヲ持ツテ居ルモノデハ
ナイ、申合セデアアル、隨テ現在ノ
法律制度ニ於テハ、經營權ト勞働
權トハ秩序ヲ保ツ爲ニ一線劃シテ
ハアルケレドモ、併シナガラソレ
ガ合意ノ上デアアルナラバ、サウ云
フ内容ヲ盛ツタ經營協議會ガ出來
テモ、ソレハ非合法デハナイゾト
云フコトヲハツキリ茲デ謳ツテ戴
キタイ、若シソレガ出來ナイナラ
バ、私ガ先程指摘致シマシタヤウ
ナ、今マデノ現在維持のナ、古イ
經濟體制ノ中ニ於ケル秩序維持ヲ
動機ト致サレマシタ經營協議會ノ
基準ヲ茲ニ提案サレルト云フコト
ハ、却テ實體ニ即シナイヤウニ思
ヒマスガ故ニ、此ノ點ヲ重ネテ御
尋ネ致シマス

○河合國務大臣 第一ノ御質問ノ
憲法案ヲ引合ニ出スト云フ御話
デゴザイマスガ、是ハ只今ヤハリ
日本ノ民主主義ガ何處ノ線ニ行ク
ト云フコトヲ法律デ明示シデア
ル譯デモアリマセヌ、大體ヤハリ憲
法ノ狙ヒヲ抑ヘマシテ、其ノ線ニ
於テ我々ガ進ミツ、アルノダト云
フコトガ常識ダラウト思ヒマス、
ソレデ私ハ憲法ノ一々ノ末端ノ條
文ヲ言フノデハアリマセヌ、憲法
全體ニ流レテ居ル精神、ソレハ經
營權ト勞働權ト云フモノガ互ヒ
權利ヲ侵犯シテハイカスト云フ思
想ノ根本ヲ申上ゲテ居ルノデアリ
マス、是ガ大體今ノ日本ノ進ム
「デモクラシー」ノ線ナリト思ツ

テ居ルカラ、僊々ソレヲ憲法案
ト云フ言葉デ表現シテ居ルダケデ
アリマスカラ、此ノ點ハ深ク字句
ニ拘ラズ御考ヘテ願ヒタイと思
ヒマス
ソレカラ其ノ次ノ勞働保護法ト
申シマスガ、基準法ト申シマカス
サウ云フモノニ對シテ勞働條件以
外ニ、生産關係ニ對シテ勞働者ガ
當然權利ヲ持ツテ居ルヤウナ意味
ノモノヲ書クカト云フヤウナ、極
ク端のニ申シテ、結論ヲ言ヘト云
フ御話デアリマシタガ、ソレハ書
ク意思ハ持チマセヌ、ソレカラ第
三ノ經營協議會ノ點ニ付キマシテ
是ハ勞資對立ト云ヘバ對立、調和
ト云ヘバ調和デ、決シテ言葉ニ依
ツテ盡セル譯デハアリマセヌガ、
只今ノ「デモクラシー」ノ傾向ニ
依ツテ斯ウ云フ位ノ所ガ宜カラウ
カト云フ意味ニ於テ、一ツノ「サ
ンプル」ヲ示サウカト云フ意味デ
アリマス、ソレヲ契約ニ依ルモノ
ハ當然宜イノデアアルカラ、其ノ點
ヲ明示セヨト云フ御話デアリマシ
タガ、此ノ點ニ付ハハ考ヘテ見マ
スケレドモ、大體是ハオ互ヒツク
デ斯ウ行カウデハナイカト云フコ
トヲ五ニ妨ゲルト云フコトハナイ
譯デアリマス、是ハモウ社會通念
上最モ明瞭ナ所デアリマスカラ、
能ク考ヘマシテ、サウ云フ風ニ誤
解ガアリマスレバサウ云フコトヲ
致シマセヌガ、誤解ガナケレバ此
ノ案デ行クカモ分リマセヌ、是ハ

行政ノ問題トシテ考ヘタイト思ツ
テ居リマス
○續積委員 其ノコトヲ是非希望
致シマシテ此ノ質問ヲ打切り前ヘ
進ミタイト思ヒマス、尙ホ先程私
ガ御願ヒ致シマシタ如ク、此ノ問
題ハ今後ノ日本ノ經濟安定政策ニ
非常ニ關聯致シテ居リマスノデ、
今日才願ヒガ出來マセヌデシタラ
是非此ノ次ノ機會ニ閣下務大臣ト
共ニ、改メテ其ノ問題ニ付キマシ
テ河合厚生大臣トオ二人ニ御尋ネ
致シタイト思マス
ソレカラ次ノ私ノ御尋ネハ最モ
地ニ付イタ話デアリマスガ、如何
様ニ勞働者ノ生活ヲ念願サレマシ
テモ、次ノ我が國ノ經濟ノ實情、敗
戰後ノ經濟ノ實情ニ依リマシテハ
會テ英國ノ資本主義經濟ガ上昇シ
タ時、或ハ戰勝後ノ一時ノ不景氣
ト云フヤウナモノト事變リマシマ
シテ、謂ハハ或ル意味ニ於ケル萬
年不景氣ノヤウナ形ヲ取ル、サレ
バ續イテ、石橋藏相ガ在野ニ居ラ
レタ時ノヤウナ議論ヲ取ラレマシ
テモ、補償ノ打切り或ハ企業ノ根
本的ナル整備ト云フコトガ考ヘラ
レマス、サウナツテ參リマスト大
量ノ失業者ヲ茲ニ放出スルト云フ
コトガ考ヘラレルトデアリマス、
同時ニ第二ニ設立サレマシタ新ナ
ル事業會社ハ總テ生産ノ中ニ於キ
マシテ秩序ヲ維持致シマシテ、ソ
シテ是ガ一ツデモ多クノ増産ニ邁
進シナケレバナラスト云フコトガ

恐ラクハ其ノ時期ニ於ケル輿論ト
ナルト思フノデアリマス、ソコデ
其ノ狀況ヲ頭ノ中ニ描キマシテ具
體的ニ御尋ネ致シタイコトハ、此
ノ次ノ時期ニ於テ、間近ニ迫ツテ
居リマスル企業ノ整備ト共ニ大量
ニ更ニ放出サレマスル失業者ニ對
スル對策ヲ一體具體的ニドウ御考
ヘニナツテ居ラレルカ、失業ヲ、
詰リ截首ヤリマス時ニ、事業主
側ニ或ル程度ノ補償ノ責任ト云フ
モノヲドウ云フ風ニ御考ヘニナツ
テ居ラレルカ、其ノ問題ト、第三
ニハ其ノ時期ニ於キマスル勞働爭
議デアリマスルガ、是ハ其ノ時ニ
相當廣汎ニ而モ訓練サレタ運動方
針ヲ展開サレルトコトガ豫想サレル
ノデアリマスガ、其ノ生産ノ一途
ニ擔ツテ行カナケレバナラスト云
フ事態ヲ前ニ致シマシテ、實ハ一
方ニ於テ最後ノ背水ノ陣ヲ布イテ
勞働者ガ爭議サレナケレバナラ
スト云フヤウナ事態、即チ失業ト
勞働爭議ノ頻發ト云フコトガ考ヘ
ラレト譯デアリマスガ、此ノ二ツ
ニ對シマスル御方針ヲ明確ニサレ
ルコトガ、此ノ法律ガ制定サレマ
スヨリ遙カニ其ノ目的ニ向ツテハ
實際ノ効力ヲ發スル境目デアルト
思ヒマスノデ、其ノ二ツノ點ヲ御
尋ネ致シタイト思ヒマス
○河合國務大臣 失業對策ヲドウ
云フ風ニヤツテ行カト云フ御質
問ガ第一デアリマシタガ、此ノ問
題ハ非常ニ廣汎ニ互ル問題デアリ

マシテ、今日差支ヘナケレバ此處
デ御説明ヲ致シマスケレドモ、時
間モ後レテ居ルノデ餘リ長イ説明
モドウカト實ハ考ヘマスノデ、別
ノ機會ニ於テ細カク申上ゲル積リ
デアリマスガ、大體ノ線ニ於キマ
シテハ、此ノ企業整備其ノ他ニ出
テ來ル失業者ニ對シテモ何カ考ヘ
ナクチャナラス、殊ニ都會中心ニ
失業者ガ出テ來ルデアラウ、ソレ
ニ對スル特別ナ對策ヲ講ジナケレ
バナラスト云フコトデ段々具體的
ノ計畫モ持ツテ居ル次第デアリマ
ス

ソレカラ爭議ノ頻發モソレニ起
ルドラウト云フ御質問デアリマシ
タガ、是ハ爭議ノ頻發モ起ルガ、工
場ノ閉鎖モ起ルト思ヒマスノデ、
此ノ爭議ノ性質ハ又今マデト多少
違ツタ爭議ノ性質ガ起キハセヌカ
ト云フ心配モ持ツテ居リマス、之
ニ對スル御説ノ方法モヤハリ考ヘ
ナケレバナラスト云フコトデ色々
苦心ヲシテ居ル譯デアリマス、殊
ニ爭議ハ賃金値上ト云フ形デ起キ
マスルガ、今ノ解雇ニ對スル補償
請求ト云フヤウナ點ナドモ出テ來
ハセヌカト思ヒマシテ、第二ノ御
質問ノ補償ヲドウスルカタ云フ問
題ニ付テモ實ハ肝膽ヲ碎イテ居ル
次第デアリマス、是モ一概ニ斯ウ
ト云フ譯ニモ行キマセズ何カ近イ
内ニ方針ヲ決メタイト思ツテ居リ
マスガ、法律ノ規定ヲ決メルニモ
中々無理ガアリマシ、ドウ云フ

風ニスルカ實ハ苦心ヲシテ居ルノ
ハ僞ラザル事實デアリマス、勿論
是ハ生活保障ト云フコトヲ今度ノ
根本問題ニシテ居リマスカラ、失
業救済ノ線ト生活保護ノ線トハー
ツノヤハリ線デアリマシテ、ソレ
ノ右ノ方ハ失業救済デアリ、左ノ
方ハ生活保護デアリ、其ノ間ニ兩
方カラ混ツテ來ルト云フ問題ガア
ラウト思ツテ居リマシテ、是ハ御
承知ノ通り約百億ノ金ガ中心ニナ
ツテ居リマス、其ノ外豫算面ニ於
テ色々ナ事業モヤリマセウシ、サ
ウ云フ面モ幾分ノ補助ニナルト思
ヒマス、ソレヲドウ云フ風ニ運轉
スルカ、出來レバ之ヲ一回限リデ
ナクシテ——役所ノ金ハ一回限リ
デスガ、何カ之ヲ二回トカ二回半
ニ廻ス方法ハナイカト思ツテ色々
考ヘテ居ル事情デゴザイマシテ、
出來ルナラバ幾分カハサウ云フ風
ニ廻シタイト云フ考ヘモ持ツテ居
リマス、サウシテ失業救済ト生活
保護トノ全體ヲ包含シマシテ、是
ハドウシテモ生産ト云フ面ニ——
昭和六、七年ノ失業救済ト違ヒマ
シテ、アノ時分ハ通貨ヲ膨脹シテ
金ヲヤレバ宜イ、金ヲ只ヤルト云
フ譯ニハイカヌカラ、何處カ山ノ
奥ヘデモ行ツテ働カセルト云フヤ
ウナコトヲ主眼ニシテ居リマシタ
ガ、今度ハ生活力ヲ與ヘルト同時
ニ生産ニ向ケテ行クト云フコトニ
苦心ヲシテ居ル次第デアリマス

○達澤委員長 穂積君、マダ大分

アリマスカ
○穂積委員 アリマス
○達澤委員長 大體三十分位ト云
フコトデアリマシタカラ、餘リ長
クナツテハ——ソレデハ本日ハ是
デ打切りマシテ散會致シマス
午後一時二十分散會

昭和二十一年八月十九日印刷

昭和二十一年八月二十日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局